

総合調整・共通事項

平成29～38年度
指定管理者

提案書類（事業計画書）

団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

所在地 墨田区横網1-4-1

代表者名 日枝 久

本提案書類は、指定管理者選定要項に基づき平成28年5月時点で計画されたものであります。今後東京都の施策や社会情勢の変化を踏まえ、都と綿密に協議し、提案内容を適宜見直しながら、年度の事業計画を立案してまいります。

目次

課題1	〔前期指定期間（平成21～28年度）の総括〕	1
課題2	〔運営戦略〕	6
1	10年の指定期間を活かした、各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について	6
2	東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について	14
課題3	〔事業等の連携〕	23
1	東京都との連携について	23
	（1）東京都の文化振興施策との連携	23
	（2）「東京都長期ビジョン」など、その他の東京都諸施策との連携	24
	（3）大規模改修をはじめとする都施工工事等への協力体制	25
2	都立文化施設等の連携について	26
	（1）6館及び歴史文化財団の業務の仕組み	26
	（2）連携の取組について	28
3	都立文化施設以外の施設等との連携について	30
課題4	〔6館の調整と共通事項〕	34
1	業務の品質管理について	34
2	人材育成の取組について	37
3	館の管理に係る調整等について	39
	（1）施設等の管理業務に係る調整	39
	（2）危機管理	42
4	個人情報の保護に関する取組について	45
課題5	〔収支計画〕	46
1	指定期間における収支の考え方について	46
	（1）収支の基本的な考え方	46
	（2）財務上の連携、利益や赤字の取扱い	47
	（3）各館の収支構造イメージ	48
2	平成29～33年度の収支計画について	54
課題7	〔自由提案〕	57

提案課題1〔前期指定期間(平成21～28年度)の総括〕

1. 実績と成果

(1) 財団全体の取組

東京都歴史文化財団(以下、「財団」という)は、「東京都庭園美術館」「東京都江戸東京博物館」「江戸東京たてもの園」「東京都写真美術館」「東京都現代美術館」「トーキョーワンダーサイト本郷」「トーキョーワンダーサイト渋谷」「トーキョーワンダーサイトレジデンス」「東京都美術館」「東京文化会館」「東京芸術劇場」「東京舞台芸術活動支援センター(水天宫ピット)」の12の都立美術館・博物館、コンサートホール等の管理運営を行うとともに、アーツカウンシル東京の運営を通して、文化事業の実施や文化活動の助成など幅広い事業を展開してまいりました。

前期指定管理期間(平成21年度～28年度)には、健全な財政管理とコスト削減、公益性と信頼性の維持向上に努め、着実な管理運営を行ってまいりました。さらに以下に示す通り、各施設の魅力の充実を図り、都民をはじめ多くの方に質の高い文化事業を提供し、東京都の文化行政の一翼を担ってまいりました。

※以下の実績は平成21年度から26年度まで

良質な展覧会を多くの方に提供

東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館において、各館それぞれが文化施設としての使命に基づき、常設展示、企画展示、特別展示等により貴重な歴史資料や美術作品の鑑賞機会を提供し、大変多くの方にご観覧いただきました。

展覧会数 : 325本
※常設展示の数は除く
観覧者数: 18,048,209人
※東京都民1335万人が展覧会を1.35回観覧

魅力的な舞台芸術を発信

東京文化会館、東京芸術劇場において、最高の舞台環境のもとで、オペラ、バレエ、オーケストラ、演劇、ダンス等の良質な舞台芸術作品の鑑賞機会を、主催・共催・提携公演により提供し、多くの方にご鑑賞いただきました。

公演回数 : 2,272公演
入場者数: 2,325,245人

若き才能をバックアップ

東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館、東京文化会館、東京芸術劇場では、展覧会や公演、コンクール等を通して、新たな才能、人材の発掘や育成を積極的に行いました。

展覧会・公演事業数: 249本
若手・新進芸術家: 1,184人

学校の良きパートナーとして連携を推進

東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館では、学校との教育活動の連携としてスクールプログラムを行い、子供たちが直に文化に触れ、感じ、学ぶための支援をしました。また、教員に対し各館の活動の紹介や活用方法などを話し合う場を設けました。先生方にも体験を通して楽しく学べる場ということを理解していただきました。

スクールプログラム
参加学校数: 1,237校
 スクールプログラム
参加生徒数: 48,415人
 教員研修参加教員数: 579人

芸術文化の殿堂として鑑賞・発表の場を提供

東京文化会館、東京芸術劇場、東京都美術館は、音楽・演劇・美術の殿堂として、年間を通してたくさんの優れた公演や展覧会を受け入れ、数多くの方にご来場いただきました。日本を代表する鑑賞・発表の場として日本の芸術文化を支える役割を果たしました。

東京文化会館・東京芸術劇場
貸館公演回数: 5,871本
入場者数: 4,231,580人
 東京都美術館
公募展展覧会数: 1,082本
入場者数: 5,322,783人

さまざまな事業を展開し、たくさんのお客様をお迎えし、一定の成果を得ました。さらに安心・安全な施設運営を行い、お客様及び施設面での大きな事故は一度もありませんでした。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題1〔前期指定期間(平成21～28年度)の総括〕

(2) 各館の取組実績

【東京都江戸東京博物館】

常設展では、徳川家康入府から現代に至る400年あまりの期間について、貴重な実物資料や復元模型・体験資料を用いて江戸東京の魅力を紹介。さらに、調査研究の成果を踏まえ、企画性のある年5～6回の特別展に加えて講座や体験教室等の事業を実施し、首都東京の歴史博物館として歴史の魅力を伝えました。

- 都市史博物館として 首都東京の歴史・文化をわかりやすく学べる博物館として、指定管理期間中(21～26年度)には、約700万人の来館者を事故なくお迎えし、また約9,500校、73万人の小学生の歴史学習の場となりました。年々外国からの来館者も増加し(推計約70万人)、東京の都市史博物館として重要な責務を果たしてきました。
- 常設展リニューアル 東京都と緊密に連携しつつ、学芸員により最新の研究成果を反映させ、常設展示室の魅力を高めるためにリニューアルを実現しました。解説の多言語化の拡充にも取り組み、多くの外国からの来場者に江戸東京の魅力を伝えました。
- 都市間交流 東京・北京・ソウルの3都市博物館連携を長きにわたり継続し、相互に強い信頼関係を築きました。今年度は江戸東京博物館を会場として14回目となるシンポジウムを開催しました。文化の面で都市外交の一翼を担っている一例であると言えます。
- 両国にぎわい祭り これまで培った地域との信頼関係をもとに、国技館や地元商店街と連携し、江戸博の立地する両国地区で行われる両国にぎわい祭りが恒例行事となり、両国地域の拠点となりました。

【江戸東京たてもの園】

現地保存が不可能な文化的・歴史的価値の高い30棟の建造物を移築し、復元・保存・展示しています。建造物及び内部での生活民俗資料の展示や、復元建造物を活用した季節ごとのイベントを通して、かつての生活文化の様子を伝えました。

- 多摩を拠点とした唯一の都立文化施設として 復元建造物や展示室において、関連する多摩地域の生活や歴史を紹介するとともに、各地の博物館とも連携して多摩の文化興隆に寄与しました。
- 移築復元 東京都と緊密に連携しつつ、3棟の新たな移築復元を円滑に実施しました。調査研究を基に当時の生活の様子を復元して、野外博物館としての魅力をより一層充実させました。
- 来園者50万人 平成26年度は近隣にあるスタジオジブリとの長年の連携の結果、ジブリ作品とともに建造物の魅力を伝える展覧会を開催し、来園者数約50万人の記録を達成しました。
- 復元建造物を活用した魅力的なイベント 夏期の「特別夜間開園 下町夕涼み」や秋の「紅葉とたてもの園のライトアップ」等、復元建造物や環境を存分に活かした事業を実施し、好評を得ています。またこれらの事業では地元小金井市及び商工会等とも連携し、地域の一大イベントに成長させました。

【東京都写真美術館】

日本で初めての写真・映像の総合的な専門美術館として、日本を代表する写真・映像のセンター的役割を果たしてきました。貴重な作品を次世代に継承するとともに、国際的な動向を踏まえながら、質の高い写真・映像文化を提供するため、多様な企画展示を開催する等、各種事業を実施し、写真・映像文化の魅力を発信し、国際的な評価も高めました。

- 文部科学大臣芸術選奨受賞 固定的な常設展示とは異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展や独自の切り口による自主企画展等、館のコレクションを有効活用し、専門性の高い学芸員による魅力的な展覧会を数多く開催しました。その成果として、館の学芸員が企画した展覧会により、文部科学大臣芸術選奨受賞作家を5年連続して輩出しました。
- 映像の一大祭典 映像部門の発信の柱として「恵比寿映像祭」を地域の施設・機関と連携・協力しながら継続して開催し、国際的な映像祭として定着させました。
- 陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト 陸前高田被災資料デジタル化プロジェクトに保存科学研究室の情報、技術を惜しみなく提供し、多くの貴重な被災資料を救出し、次世代に伝える取組に貢献しました。
- 地域連携の中心的役割 渋谷・恵比寿エリアの文化施設を結ぶ企画「あ・ら・かるちゃー」の中心的役割を担い、地域の文化拠点の形成に大きく貢献しました。
- リニューアルオープンに向けて 事業体制の再構築等、リニューアル後により魅力的な美術館活動を期待以上に実施していくための基盤整備を着実に進めています。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題1〔前期指定期間(平成21～28年度)の総括〕

【東京都現代美術館】

「現代」と「美術」を結ぶメッセージを内外に発信することを目的として、収蔵作品を活かした現代美術の流れを展望できる常設展示や、大規模な国際展をはじめ、絵画、彫刻、ファッション、建築、デザイン等ジャンルを限らず幅広く現代を捉える展覧会を開催してきました。あわせて教育普及活動や各種講座、講演会等、多彩な事業を展開し、一見難解と思われる現代美術を都民にとって身近な存在にしました。

- 企画性のあるコレクション展** 「常設展示」では、テーマを設定し企画性のある「MOTコレクション」を展開しています。学芸員によるキュレーションによって豊富なコレクションを存分に活用し変幻自在で魅力的な常設展示として高い評価を得ています。現代美術の見方や楽しさを伝えるきっかけとなるものとして定着させました。
- 恒例の夏の展覧会** 夏にはより親しみやすい展覧会をつくることを意欲的に行いました。近隣学校とも連携し、子供たちも展示作品作りに参加するなど趣向を凝らしながら実施し、定着させました。
- 現代美術としてのサブカルも** アニメやマンガなどサブカルチャーも優れた現代美術と位置付け、積極的に紹介し、現代美術のファンの裾野を広げました。
- 街のイメージを変える** 地元商店街と協力体制を構築しながら展覧会の連携企画も生まれる等、街に対して館の存在が大きく影響し、清澄白河の街のイメージを変えました。

【東京都美術館】

国内外の名品を楽しめる特別展をはじめ、バラエティに富んだ企画展・連携展、美術団体等による公募展を開催するほか、美術館を交流の場として新たな可能性を探求するアート・コミュニケーション事業を展開し、美術及び美術館の楽しみの幅を大きく広げる役割を果たしました。

- 新生・東京都美術館** 伝統と歴史ある美術館をさらに発展させ、新たに、人びとの「アートへの入口」となる新生・東京都美術館を誕生させました。リニューアル後も、毎年、大規模展覧会を円滑に開催し、多くの都民に世界の名品を鑑賞する機会を提供してきました。リニューアルオープン記念展「マウリッツハイス美術館展」では、平成24年の一日当たりの入場者数が世界一となり、「世界の名品に出会える美術館」を体現しました。
- アート・コミュニケーション事業** リニューアルを機に新たに「美術館の価値を対話によって共につくる」というアート・コミュニケーション事業を立ち上げ、東京藝術大学と連携し、アートコミュニケータ120人を養成しました。また、上野9館(都美含む)での連携を実現させ、上野文化の杜構想の展開にもつなげました。本事業は先進事例とされ、多くの関係者から注目されています。
- 公募団体のより良い発表の場** 多くの公募団体に展示室の活用機会を与える仕組みづくりや、指定管理期間中(～26年度)に公募展示室稼働率100%を維持するなど、団体の活性化に取り組みました。また、指定管理期間中(～26年度)には約532万人を超える来場者をお迎えし、日本の美術界を支えることに寄与しました。

【東京文化会館】

国内外の第一線で活躍する指揮者、演奏家、歌手、バレリーナが公演を行った、世界に冠たる日本有数の音楽の殿堂として、そのステータスを維持しながら、さらに高めるべく管理運営してきました。一流の公演を開催するとともに、芸術文化の拠点として「創造・発信」「育成・支援」「次世代への投資」を柱とする多彩な主催事業も積極的に企画制作し、都民に良質な音楽環境を提供してきました。

- 東京音楽コンクール** 東京都と共催の音楽コンクール事業の国際化を図りました。平成27年度で13回目となり、過去最高の応募者数を記録、音楽業界の中で着実に定着させるとともに、多くの若手音楽家の育成に寄与しました。
- ミュージック・エデュケーション・プログラム** 日本初の試みとして、ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」との国際連携によるエデュケーションプログラムを開始しました。学校を始めた都内各所に、現地ポルトガルでノウハウを学んだ「東京文化会館ワークショップリーダー」を派遣しオリジナルワークショップを開催、業界内外から高い注目を集めました。
- 文化の発信・新たな試み** 「古事記」舞台版オペラを日本初演したことや、日本舞踊とバレエとオーケストラとのコラボレーションなど、既成の音楽ジャンルや表現形式にとらわれず、創造性・独自性にあふれる作品を積極的に制作・発信し、音楽ファンの拡大を図りました。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題1〔前期指定期間(平成21～28年度)の総括〕

【東京芸術劇場】

世界最大級のパイプオルガンが設置されたコンサートホール、多様な演出に適応可能なプレイハウス等を有する総合的な芸術文化施設として、音楽・舞台芸術の新たな文化の創造・発信を行う拠点となるべく、国内外に広く魅力を発信しました。

- **芸劇ブランド** 「芸術文化の創造発信」「教育普及・人材育成」「賑わい」「国際文化交流」の拠点形成という新たなミッションの基で事業展開を変革しました。多彩な自主事業を実施し、貸館事業の施設というイメージを一新させ、芸術劇場のブランド力を大きく向上させました。
- **演劇のメッカ** 野田秀樹芸術監督を迎え、良質な舞台芸術作品の創造発信拠点として全国のモデルとなりました。演劇界の登竜門「岸田國士戯曲賞」を、芸劇eyesで共催している若手劇作家が受賞するなど、演劇人にとっての夢の舞台という地位を確立させました。
- **音楽事業の展開** 音楽分野でも、首都圏の音楽大学との連携や、音楽文化を担う人材の育成、海外の一流オーケストラの招聘など、新たな事業を積極的に展開し、音楽文化の環境の向上に寄与しました。
- **賑わい創出** 豊島区や地元施設、大学等と連携し、地域のイベントなど多くの事業に協力してきました。いまや文化の街として認識されるに至った池袋地区の賑わい創出に中心的な存在として貢献しました。

■参考■

※以下の施設は指定管理の対象ではありませんが、都から管理運営を任せられ適切に運営するとともに、指定管理館との連携事業等を実施してまいりましたので、参考として示します。

【東京都庭園美術館】

旧朝香宮邸を、アール・デコ様式の建築空間と内部装飾の保全に配慮しながら美術館として活用してまいりました。平成26年11月にリニューアルオープンし、邸宅、庭園、新館ギャラリーを有する国際的にも特色ある美術館として、特別な展示空間を生かした質の高い展覧会を開催し、庭園美術館の文化的価値を広く社会へ発信しました。

- **建物を生かした魅力的な展覧会の実施** 都内に残る貴重な建造物と庭園を適切に管理するとともに、建物の特性も活かした魅力的な展覧会を開催し、文化的環境の創出を高い次元で行いました。平成27年7月には本館(旧朝香宮邸)・茶室・正門等が国の重要文化財に指定されました。
- **新たな試みの実施** リニューアルオープン後、旧朝香宮邸の建築の魅力を多くの来館者に伝えるため、ウェルカムルームの設置、多言語化に対応した鑑賞アプリなどの鑑賞ツールを開発し、鑑賞環境の充実を図りました。

【トーキョーワンダーサイト】

本郷、渋谷、レジデンスの各施設が複合的に機能し、若手支援、国際的に活躍するアーティストへのサポート、音楽をテーマにした実験的な公演など多岐にわたる事業を展開し、文化都市東京においてアートプラットフォームづくりを実践しました。

- **若手のアーティストの発掘・育成** 東京から世界を舞台に活躍できる若手アーティストを育成するため、公募で選出された作品による展覧会の開催や、「作品購入が若手アーティストの支援となる」をコンセプトとしたワンダーシードなどを開催し、作品購入と連動し、アーティストがステップアップしながら活躍できる新たな仕組みをつくりました。
- **国際的なプラットフォーム** レジデンス事業として、クリエイターの受入れだけでなく、海外への派遣事業も行い、双方向の国際文化交流を推進しました。

【アーツカウンシル東京(旧東京文化発信プロジェクト室も含む)】

新たな芸術文化創造の基盤整備をはじめ、東京の独自性・多様性を追求したプログラムの展開、芸術文化活動を支える人材の育成や国際的な芸術文化交流の推進等に取り組み、東京都の芸術文化施策の中核的役割を果たしました。

- **芸術文化支援事業の実施** 東京の芸術文化の創造と発信、芸術創造環境の向上に資する活動を行う団体に対する助成を行い、東京の芸術文化の魅力を発信する創造活動を支援しました。
- **地域を拠点とした大型イベント** 動員数80万人を超える六本木アートナイトやフェスティバル/トーキョー等大型のイベントを、地域団体や民間事業者等と連携し、年々規模、質も向上させながら成功させました。
- **都立文化施設との連携** 都立文化施設と連携し、公演・イベントの開催やワークショップリーダー等の人材育成、子供たちが主体的に芸術文化と関わりあう環境の整備等、各館の活動をより魅力的に充実させました。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題1〔前期指定期間(平成21～28年度)の総括〕

(3) 指定管理者管理運営状況評価の状況

財団は、芸術文化の発信拠点として都立文化施設の質を維持し、安定した管理運営を実践してきました。指定管理者の管理運営状況評価において、毎年6施設のうち2施設以上がS(管理運営が優良であり、特筆すべき実績・成果が認められた施設)と判定されています。指定期間中にS判定を15回、A判定を20回という評価を得ました。

注)東京都では、指定管理者制度を導入した平成18年度から、指定管理者の毎年度の管理運営状況について、第三者の視点を含めた指定管理者管理運営状況評価」を毎年実施し、管理運営の適正を担保するとともに、都民サービスの一層の向上を図っています。

評価区分S: 管理運営が優良かつ特筆すべき実績・成果
 評価区分A: 管理運営が良好
 評価区分B: 管理運営が一部良好でない

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
東京都江戸東京博物館	B	A	A	A	A	S
東京都写真美術館	S	S	S	S	S	S
東京都現代美術館	S	A	A	S	A	A
東京都美術館	A	A	A	A	S	A
東京文化会館	A	A	S	A	A	A
東京芸術劇場	A	S	A	S	S	S
財団施設S評価取得率	33%	33%	33%	50%	50%	50%
指定管理者全施設 S評価取得率	23施設 11%	30施設 14%	10施設 4.7%	22施設 10.5%	36施設 17%	41施設 20%

平成21年度 (全210施設): S 23施設(11%) A 186施設(88.5%) B 1施設(0.5%)
 平成22年度 (全211施設): S 30施設(14%) A 181施設(86%) B 0施設
 平成23年度 (全213施設): S 10施設(4.7%) A 199施設(93.4%) B 4施設(1.9%)
 平成24年度 (全210施設): S 22施設(10.5%) A 186施設(88.5%) B 2施設(1%)
 平成25年度 (全210施設): S 36施設(17%) A 174施設(83%) B 0施設
 平成26年度 (全205施設): S 41施設(20%) A 163施設(79.5%) B 1施設(0.5%)

2. 経験やノウハウの活用……東京都歴史文化財団の「強み」

財団は、これまで一貫して都立文化施設の管理運営に従事してまいりました。また近年では、アーツカウンシル東京の連携事業により、自主事業の幅を広げ、より先進的な取組を行っています。多数の施設運営と幅広い事業を展開する国内最大級の文化事業の専門家集団といえます。他の事業者にはない東京都歴史文化財団のもつ「強み」として、次のような点が考えられます。

○施設開館以前から従事し、業務内容に精通

東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京芸術劇場については、開館前の準備段階から運営に従事している職員を有します。館と共に歩み、その歴史と事業を熟知し、収蔵品や施設の特性を最大限に生かす運営ノウハウを次世代に引き継いでいくことができます。

○幅広い専門性と実務経験

美術館・博物館の学芸員、ホール・劇場の制作スタッフ、舞台管理スタッフはもとより、広報や管理運営についても実務経験豊かな専門スタッフを有しています。またこれまでの文化施設の運営・文化事業の実施で培った実績を活かし、マネジメント層にも数多くの専門人材を擁します。

○全国レベル、国際的に通用する活動

職員は日本を代表する文化施設の業務に従事しており、文部科学大臣芸術選奨に該当する各種の受賞を得るなど評価の高い事業を実施しています。後に高い評価を受けた新進作家の作品を世に先んじて収集するなど、公立美術館として都の予算を最大限に生かしています。また、これまでの海外の文化施設との連携事業を通じて直接交渉・プレゼンテーションをして企画することができます。

○東京都監理団体職員としての公共性、法令遵守

東京都監理団体の職員として公務員に準ずる立場で、職務における公共性と公益性を認識しています。東京都のルールを準用し、コンプライアンスの意識を堅持して業務に従事しています。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

1. 各館の潜在力及び総合力発揮のための基本姿勢と運営戦略

(1) 東京都歴史文化財団の基本姿勢

財団には、都立文化施設の指定管理者であるほかに、東京都の監理団体、さらに公益財団法人という二つの側面があります。この二つの側面で責務を果たすことを基軸とし、都立文化施設の運営に邁進いたします。

監理団体として…都政への貢献

今期の指定管理期間では、東京都の監理団体として当財団が指定管理者予定事業者となりました。東京都の文化施策をもっとも着実に実行する、都政に必要不可欠な団体としての役割が期待されます。財団は、各館の潜在力の発揮と相乗効果によって、6館の総合力をさらに高め、東京の文化の魅力の創造と発信に寄与いたします。また、教育や産業・観光振興、オリンピックをはじめとするスポーツイベントなど、東京都の他分野の政策との連携・協力をより効果的かつ効率的に行います。

公益財団法人として…公益性・信頼性の維持増進

財団は、公益財団法人として、不特定多数の利益に供するよう事業を展開します。都民をはじめとする人びとに対する適切な利用機会の確保、各種法令等の遵守の徹底、適正な管理運営に努め、特定の利益に左右されない、高い公益性と信頼性を維持・増進させていきます。また、国内外の多くの人びとに向けた活動を行い、集客や収益を確保する一方で、時には必ずしも採算性の見込めない分野の芸術文化の発信に取り組み、公益性・公共性の高い団体として求められる役割を果たしてまいります。

これらの基本姿勢に基づき、都立文化施設の指定管理者として、今後も都の文化政策の一翼を担い、各館の使命に即した適正な事業運営を行います。

そして、各館の持ち味を最大限に発揮するとともに、規模的・時間的スケールメリットを活用して、**単館では成し得ない分野横断的で多彩な事業を、安定した運営体制のもとで**都民をはじめとした多くの人びとに発信していきます。

その結果として、当財団の設立の目的にあるように、「東京都における芸術文化の振興や都市の歴史及び文化の継承とその発展を図り、もって創造性に満ち、潤いのある地域社会づくり」を力強く前に進めてまいります。

(2) 今期指定管理期間の運営戦略 —文化の力で社会と人を未来につなぐ—

今期指定管理期間では、「東京文化ビジョン」の実現に向け、財団の総力を挙げて取り組みます。特に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組に力を尽くし、そこで得た成果をレガシーとして今後を引き継ぎ、文化の力で社会と人を未来につないでいきます。このことを効果的に実現できるよう財団全体で次の点に留意し、事業を展開していきます。

①質と量のバランスの取れた運営

これまで蓄積してきた知識と経験を活かし、**高度な専門性に裏付けされた質の高い事業**を展開してまいります。同時により多くの人びとに親しまれる事業を展開し、**集客や収益を確保し、質と量のバランスの取れた事業運営**を行います。また、ホスピタリティに満ちた柔軟な対応によって多くの人びとの満足度を高め、より能動的に文化に関わる機会を提供して文化に親しむ層を拡大していきます。

②国内外の関係機関との連携の強化

国内外の関係機関との信頼関係をさらに深め、連携を強化し、より魅力的で創造性のある事業を展開していきます。グローバル社会の中で、相互に文化を発信・享受し、**文化の広がりや深みを世界的な観点から広く還元**するとともに、文化施設として**社会的課題に対応**する機能も強化していきます。

また、発信力の高い展覧会や公演の企画・制作・開催、収蔵品や調査研究成果を活かした各種交流などを促進するとともに、都の施策と連動し、**地域の文化拠点形成**や文化施設の**広域的な連携**の取組において中核的役割を担います。

③外部環境の変化に対応

日本ではすでに、世界に先駆けて超高齢社会に突入していますが、10年後の日本の社会は、ますます高齢化率が上昇します。これに伴い、子育て環境や仕事の仕方、文化に親しむ層の変化が考えられます。また、外国人の旅行者や労働者の増加も見込まれ、文化をめぐる環境にもさまざまな影響を及ぼすことが想定されます。こうした外部環境の変化を見越し、10年後の社会も引き続き豊かな文化を創出できるよう、**長期的な視点で事業を展開**していきます。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

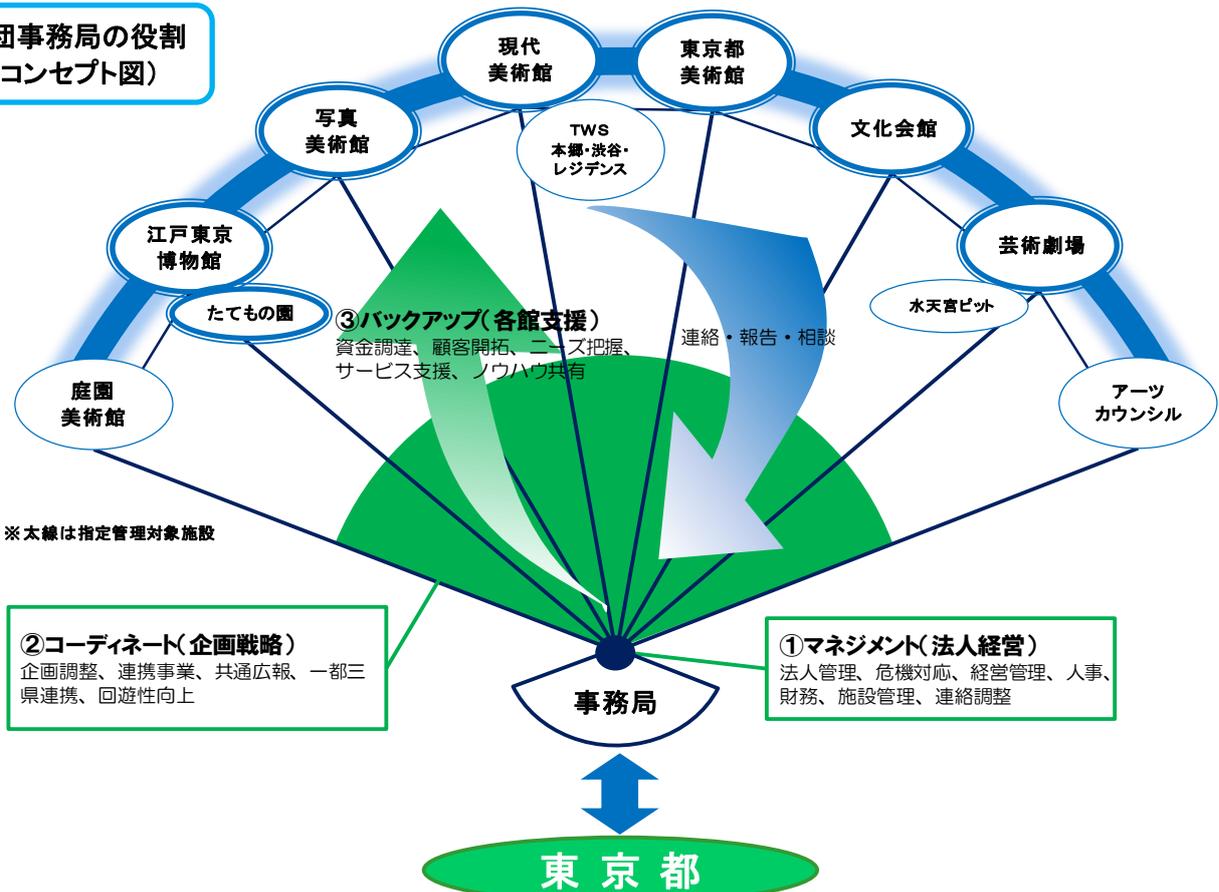
(3) 財団事務局の役割・・・施設をつなぐ「法人の要」

財団事務局は、都立文化施設やアーツカウンシル東京など各部門をつなぐ「法人の要」として、財団全体の経営を統括します。適切なガバナンスの維持、コンプライアンスの確保、透明性のある財務管理など東京都の監理団体として、さらに公益法人として健全な運営を図ります。スケールメリットを活かし、事務局において総務や人事、財務等に関して一元的に統括することで、各館が使命に則した役割を効果的に果たせるよう、効率性を高めます。

また、財団全体の運営基盤を強化し、サービス向上に一括して取り組むことで、各館の活動を支援し、取組の向上を図ります。各館の事業計画を取りまとめ、コーディネート機能を発揮し、財団全体の中長期的な事業の展望を描くとともに、目標を明確にして各館の企画を調整し、戦略的に事業を展開することを促します。

このように、財団事務局は、各館が使命に則して個性を発揮できるよう事業やサービスを支援していきます。また、各館・各部署に共通する事業も実施することで、各文化施設単独では成し得ないスケールメリットを活かし、法人としての財団全体の総合力を発揮できるよう全体を調整します。

**財団事務局の役割
(コンセプト図)**



【財団事務局の業務】

① マネジメント(法人経営)

監理団体及び公益法人として健全な運営を行えるよう、財団事務局が一括して法人管理を行います。具体的には各館が使命に則した役割を効果的に果たせるよう、事務局において主に次に掲げる総務や人事、財務に関して一元的に統括することで、効率性を高めます。

- 法人管理
理事会・評議員会、公益認定、監理団体報告、監査、規程整備、法務、文書管理、情報公開 等
- 危機対応・リスク管理
危機管理、情報セキュリティ、コンプライアンスの確保 等
- 経営管理
経営目標設定・目標進捗管理、事業計画策定、事業総括、顧客満足度調査 等

事業者名・団体名 | 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

- 人事
採用、任用・昇任、人事異動、人材育成(研修等)、給与、服務、安全衛生、福利厚生 等
- 財務
予算・決算、税務、会計監査、契約、支払、財産管理 等
- 施設管理
修繕計画、維持保全業務・修繕工事等技術支援・指導 等
- 連絡調整
財団内(各館、アーツカウンシル東京、役員、評議員)、東京都、その他各種団体 等

②コーディネート(企画戦略)

全館に共通する取組を行い、一体的に運営するメリットを發揮するため、**戦略的に企画の調整**を行います。また、東京都の文化施策の実現に寄与するため、財団全体で対応すべきことに取り組みます。

【展開例】

《1. 連携事業》

- 共通事業
各館の事業をより効果的に展開できるよう財団全体として企画を調整し、相乗効果を図ります。また、規模的なスケールメリットを最大限に活かし、各館の個別の連携を促進し、全体の取組について企画を立案していきます。
例: 展覧会・公演等の企画調整・連携事業の企画、収蔵品共同管理の検討等
- 共通広報
各館の広報活動が円滑に行えるよう支援するとともに、財団全体で効果的な広報を展開していきます。
※詳細は提案課題3-2-(2)の2-(1)参照
例: 財団全体の戦略的な広報、各館広報の支援等

《2. 広域連携》

- 一都三県連携
東京都が推進する都内の文化施設の回遊性を高める取組や一都三県の連携策に対して協力し、中心的な役割を担います。
※詳細は提案課題3-3の2参照
例: 情報交換、共同の取組(広報、若い観客層の開拓等)の検討 等
- 回遊性向上
国内外を含め、より多くの人たちが文化施設に親しめるよう回遊性を高める取組を行います。
※詳細は提案課題3-3の2参照
例: ミュージアムぐるっとパスの運営・拡充、新たな共通券導入の協力

③バックアップ(各館支援)

財団全体の**運営基盤を強化**し、安定した事業を展開します。また、**各館の取組を財団全体で向上**させ、事業の質を高めるよう支援していきます。

【展開例】

《1. 基盤強化》

- 資金調達
資金調達の面で、各館を支援する取組を行います。
例: 支援金制度の拡充、助成金情報の収集・申請支援、科学研究費の申請資格取得 等
- 顧客開拓
財団全体で、文化に携わる次世代への投資として、若い観客層の開拓に取り組みます。
例: 若い観客層や家族連れに向けたキャンペーン、大学等パートナーシップ事業の拡充 等

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

《2. サービス支援》

○ニーズ把握

利用者及び非利用者の実態とニーズを的確に把握し、各館の取組に活かせるよう各種調査を行います。

例：顧客満足度調査、非利用者調査、外国人ニーズ調査 等

○各館対応支援

財団事務局のコーディネートにより各館のサービス向上を図ります。

例：多言語化の推進、バリアフリー対応、夜間開館の実施、チケット相互販売、施設貸出情報の共有 等

○ノウハウ共有

事業に関するノウハウを流動させ、全体で共有する場を設定し、相互の力量を向上させていきます。

例：各館横断的な専門知識・技能の共有、報告会・勉強会の実施 等

【事務局と各館の主な役割分担】

	事項	事務局	各館
マ（法人経営）	<ul style="list-style-type: none"> ○法人管理 ○危機対応・リスク管理 ○経営管理 ○人事 ○財務 ○施設管理 ○連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人管理の統括・調整 ・基本方針の策定 ・規程等の整備 ・危機対応の方針・連絡体制の確保 ・事業の進行管理 ・事業計画・総括の取りまとめ ・予算編成の取りまとめ ・予算執行管理 ・決算の取りまとめ ・人員要求取りまとめ、交渉・調整 ・職員採用・配置 ・研修実施 ・各館事業評価の集約、財団全体評価 ・監査の取りまとめ ・修繕計画策定、施設管理の調整、各館支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸規定の運用 ・危機対応 ・事業計画策定 ・予算編成 ・予算執行管理 ・決算事務 ・人員要求資料作成 ・自己評価・外部評価 ・監査対応 ・施設管理の実務
コ（企画戦略）	1. 連携事業 ○共通事業 ○共通広報	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針検討、提案、策定 ・対応策の検討、調整 ・各種調整 ・全体の取組の実施 ・各館対応の支援 ・効果の検証、改善取りまとめ、共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応策の検討 ・各館対応事項の実施
	2. 広域連携 ○一都三県連携 ○回遊性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連絡調整 ・課題の検討・共有 ・対応方針・取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組への参加、具体的な対応
バ（各館支援）	1. 基盤強化 ○資金調達 ○顧客開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の分析、取組の検討 ・関係機関との連絡調整 ・各館への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組への参加
	2. サービス支援 ○ニーズ把握 ○各館対応支援 （多言語対応、バリアフリー化、夜間開館等） ○ノウハウ共有	<ul style="list-style-type: none"> ・現状把握、事例等の調査 ・課題の分析、対応検討、共有 ・対応の基本方針策定 ・各館対応支援 ・効果の検証、改善取りまとめ、共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、課題の提示 ・対応の基本計画策定 ・具体的な対応策の実施 ・効果の検証、改善検討

事業者名・団体名

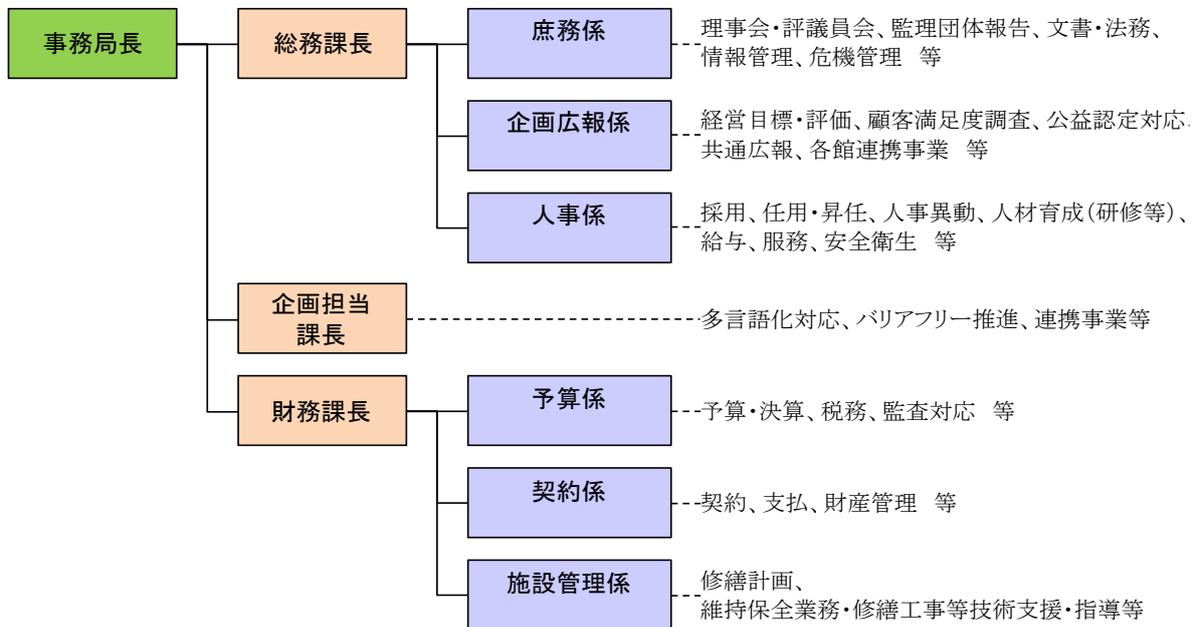
公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

【財団事務局の組織及び人材】

事務局の「法人の要」としての役割を遺憾なく発揮できるよう組織を構成し、適切な人材を配置します。

○組織

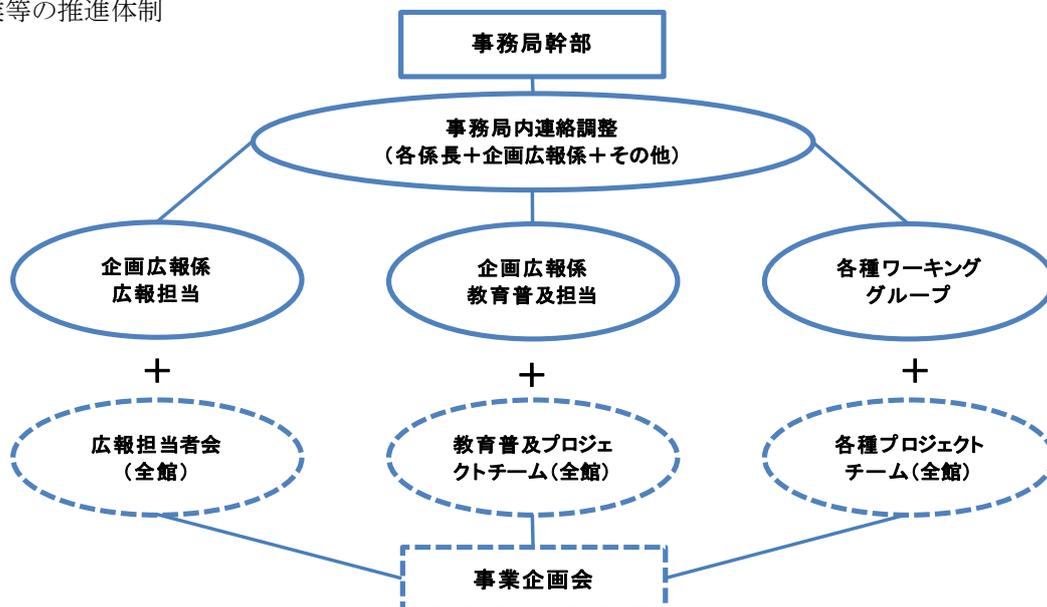


○人材

事務局の業務は、各館等における業務経験のある財団固有職員が主体的に担います。事業現場である各都立文化施設等の管理運営の知見を活かし、法人全体に係る総合的な業務の質の向上を目指します。管理系の職員だけでなく、各館等で展覧会や公演等の事業企画に携わる専門人材も適宜配置し、連携事業の企画調整や各種サービスの向上等において専門的知見に基づくコーディネート機能の向上を図ります。また、共通広報等においても各館や各所との調整や連携が円滑に行われるよう、実務経験を有する専門性の高い人材を配置します。

また、事務局長をはじめ管理監督職等の一部のポストには東京都からの派遣職員を配置し、財団固有職員と連携することで、公益法人としての適正な運営や監理団体として東京都との円滑な連絡調整を担います。

○連携事業等の推進体制



事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

2. 規模的・時間的スケールメリットの活用の取組について

(1) 基本的考え方

規模的スケールメリットを活用し、指定管理対象6館の連携にとどまらず、12の都立文化施設と1機構の連携協力体制によって、他の事業者ではなしえない事業面でのコンプレックス(複合)効果と運営面でのスケールメリットを創出していきます。

また、10年間という時間を有効に活用し、長期的な展望のもとで事業を効果的に組み立て、文化的土壌の形成、人材の育成等を進めていきます。

①6館一括の規模的スケールメリット

運営面	事業面
<p>○多様な人材の活用 財団は、多彩な専門性を持った人材を多く有しています。各施設のノウハウを横断的に流動させ、文化事業の実施や広報、ホスピタリティの向上への取組などのさまざまな面において、各施設運営のレベルアップを図ります。</p> <p>○財務上の連携 各館は成り立ちや規模、立地が異なり、収支の構造もそれぞれ特徴があります。これらの違いを超え、6館を一括して運営するメリットを最大限に活かすため、単館では成し得ない柔軟な資金投入を行うことで、各館の事業を充実させ、東京の文化水準を総体としてさらに向上させていきます。例えば、企画としては魅力的であっても、単館では収支上の理由から実現困難な事業への資金投入を行います。 ※詳細は提案課題5-1-(2)参照</p> <p>○東京都との密接かつ円滑な連携 財団は、東京都と密接に連絡調整を行い、円滑・効率的な連携に努めます。課題に対して財団全体で迅速に対応していきます。 また、今後さらに都との政策連動を高め、6館の総合力をもってして都の文化行政のみならず他分野の政策にも貢献します。</p>	<p>○6館の総合力の発揮 財団が運営する施設は、国際的な規模を誇る美術館、博物館、ホールであり、対象となる分野は歴史、建造物、写真・映像、美術、デザイン、工芸、音楽、オペラ、バレエ、演劇、ダンス等と広範です。これだけの分野をカバーすることで、多種多様なニーズに応えることができます。 「東京文化ビジョン」の実現や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた取組のなかで財団全体が一体となった事業を展開してまいります。また、各館の連携を促進し、分野を横断した多様な取組も随時行います。 展開例: 若手アーティスト支援、国際的な事業展開、日本のオリジナルを紹介 ※詳細は提案課題2-2参照</p> <p>○財団全体の取組 文化施設の管理運営だけでなく、文化団体への助成・先駆的文化事業に取り組んおり、こうした規模的なスケールメリットを最大限に発揮し、財団全体で一体的に都の文化施策に貢献することができます。また6館のみならず財団全体で相互に連携・協力することで、単独ではなしえない、幅広く、多彩で、複合的な事業を実施していきます。 展開例: 若い観客層の開拓、専門人材育成、共通広報、コレクションの有効活用等 ※詳細は提案課題2-2、3-2-(2)、6</p> <p>○ノウハウの共有・蓄積 各施設・部署のノウハウを共有し、優れた取組を横で展開することにより、効果的・効率的な事業運営を行います。また蓄積したノウハウを国内はもとより海外とも共有することで世界的な文化事業の向上に資することができます。</p>

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

②10年間の時間的スケールメリット

運営面	事業面
<p>○人材の確保と育成 10年間という指定期間によって、より安定した雇用期間を確保し、専門性の高い人材を獲得しやすくなります。また、中長期的な視点で計画的に人材の育成に取り組むことができ、マンパワーをより一層増大させ、強固な事業運営につなげます。</p> <p>○財務上の効果 中長期的な視点で収支を見通し、赤字の解消、黒字の費消などに対応することができ、より安定した事業運営をすることができます。また、繰越金を有効に活用するよう先々を見通した財務計画を立て、10年間の中で効果的に事業を展開することができます。</p>	<p>○充実した事業の実施 国内外の一流の芸術作品を集めるような大型企画や、地道な資料収集・調査研究活動の成果還元、また館の特性・ミッションに即したテーマによる連続した企画等を、中長期的な展望を持って計画的に準備し、シリーズ化するなど質の高い展覧会として開催します。</p> <p>○国内外の連携強化 国際的な大型の展覧会や国内を巡回する展覧会、また舞台芸術の企画・制作にあたって、制作に長期間を要する作品も、国内外の関係者・関係機関や他の施設と連携しながら計画的に準備を進め、創造性豊かな充実した作品を生み出し、発信します。</p> <p>○地域の文化拠点の形成 地域との信頼関係を時間をかけ丁寧に築いていきます。地域団体・住民等の協働・参画の組織体制の整備や地域資源の発掘等を積極的に行うことを通して、各施設が立地する地域が東京の文化拠点となるよう、都立文化施設はその中心的な役割を担います。 ※概要は、提案課題3-3、詳細は各館提案課題6</p> <p>○若手支援・人材育成 将来にわたって文化事業や文化施設を支える人材の育成を財団全体で継続的に行います。将来の芸術家や制作者、技術者、ワークショップリーダー、文化ボランティア等の文化に携わる人材に活躍する場を提供しつつ、継続的に支援・育成し、次世代につなげていきます。また、子供のころから芸術文化作品を鑑賞する機会、また継続的に関われる機会を増やす事業を展開します。 ※詳細は提案課題2-2の1、課題6-1の2</p>

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 1 10年の指定管理期間を活かした各館の潜在力及び6館の総合力発揮のための運営戦略と取組について

(2) 今期指定期間10年間の取組 ※個別の取組内容は提案課題2-2を参照

今期指定管理期間は都立文化施設及び機構の運営者として、東京都の文化施策と密接に連携し、各施設等の使命と「東京文化ビジョン」に基づき、「一括」「融合」「協力」のメリットを創出させる多数の事業を展開することで、「創造的な文化を生み出す都市・東京」の一翼を担います。

指定期間	前期5年間					後期5年間				
	平成29 2017	平成30 2018	平成31 2019	平成32 2020	平成33 2021	平成34 2022	平成35 2023	平成36 2024	平成37 2025	平成38 2026
文化戦略1 東京の独自性と多様性の追求	仮称 ジャパン・オリジナル・プロジェクトの準備・実施による発信 各館ミッションに則した発信（展覧会・公演等）					各館ミッションに則した発信による独自性・多様性の深化（展覧会・公演等）				
文化戦略2 文化拠点形成の中心	各地域での展開による活性化（上野、池袋、渋谷・原宿、港・品川、両国・深川）					各地域での展開定着・充実による拠点の確立（上野、池袋、渋谷・原宿、港・品川、両国・深川）				
文化戦略3 あらゆる人が芸術文化を享受	多言語化の推進 バリアフリー対応 若い観客層の開拓 → 教育普及プログラム、キャンペーン展開					多言語化の充実による理解増進 バリアフリー対応の充実による参加者増 若い観客層の開拓による利用・参加者層の若返り				
文化戦略4 新進若手の発掘・育成	仮称 ニューフェイス・シリーズ（新進作家紹介） 仮称 芸術文化スクール実施による専門人材育成					仮称 ニューフェイス・シリーズの充実（新進作家紹介） 仮称 芸術文化スクール大学連携の検討・実施				
文化戦略5 国際的な芸術文化交流	仮称 インターナショナル・プロジェクトによる発信力の強化					仮称 インターナショナル・プロジェクトの充実による多文化理解の向上				
文化戦略6 社会や都市の課題に芸術文化を活用	社会包摂の取組検討・試行・実施 超高齢社会への対応検討・試行・実施					社会包摂の取組充実による参加者の多様化、相互理解の促進 超高齢社会への対応による健康寿命の延長				
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団									

史上最高の文化プログラムの実現を通じた、東京の文化施策のバージョンアップ（参加、交流、育成、課題解決等）
 （「東京芸術祭（仮称）」への多角的に事業を展開）

前期の取組の効果検証、総括 ↓ 指定管理事業計画の見直し（後期5年分）

後期の取組の総括の効果検証 ↓ 次期指定管理提案書作成（想定）

文化プログラムをレガシーとし、文化ビジョンの具体化による東京の成熟化への貢献

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

1. 「東京文化ビジョン」の実現に向けた運営戦略と取組

財団は、東京都の文化施策を実行する監理団体として、また都立文化施設を管理運営する指定管理者として、「東京文化ビジョン」の実現を中心課題として取り組んでまいります。指定管理施設6館一括、指定管理期間10年間のスケールメリットを最大限に生かし、文化ビジョンの戦略に対応する**16の取組**を行います。

これまで各館で取り組んできた事業を基盤に、**財団全体としてテーマを設定**します。各館事業を取りまとめ、財団全体で取り組む**プロジェクトと位置付ける**ことによって、**発信力を高め効果的に展開**していきます。テーマによっては財団の運営する施設にとどまらず、都内や近隣三県にも働きかけ、**より広く展開**していきます。独自性と多様性を秘めた東京の文化発信の拠点としての役割を果たし、創造性に満ち、潤いのある都市づくりに寄与してまいります。

16の取組の中でも「2020年に向けた東京都の取組 一大会後のレガシーを見据えてー」（平成27年12月）に明示された取組（史上最高の文化プログラムの展開、アール・ブリュットの普及推進、子供や青少年への働きかけ、文化施設の機能更新、文化拠点の魅力向上、国際的な発信・交流の強化、最先端技術と芸術文化の融合、芸術文化を支える人材の育成等）に該当するものを、**財団の重点課題**と位置づけます（◎を付した取組）。主に指定管理期間の前期5年で集中的に取り組む、一定の成果を出すよう力を尽くします。

（文化戦略1） 東京の独自性と多様性を追求……伝統と現在の共存・融合

取組1 大規模フェスティバルの展開 ◎

各館において都市型総合芸術フェスティバル「**東京芸術祭(仮称)**」の一翼を担います。東京の独自性と多様性と各館のミッションに即し、東京の独自性と多様性を表現していきます。

展開するにあたっては、東京という都市の特性を生かし「現代と伝統の共存・融合」、「多種多様な芸術文化の展開・横断」、「技術力やデザインと芸術文化の協調」といった点に留意します。日本の歴史芸術文化の文脈に必ずしも通じていない外国人観光客にも親しみをもって受け止められるよう工夫していきます。

【展開例】 ※詳細は各館の事業計画書「地域等との連携の取組」を参照

歴史・伝統文化……東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園

メディアアート・テクノロジー……東京都写真美術館（恵比寿国際映像祭）、東京都現代美術館

現代美術……東京都現代美術館（MOTサテライト）、東京都美術館、東京都庭園美術館、

トーキョーワンダーサイト

舞台芸術……東京都文化会館、東京芸術劇場

取組2 歴史と文化の発信

東京都江戸東京博物館と江戸東京たてもの園では、常設展示や特別展、教育普及事業、野外収蔵建造物等を用い、江戸から東京へ400年の歴史と文化を幅広く発信し、国際的な理解を深めます。教育普及事業を館の新たな柱の一つと位置づけ、次代を担う子供たちに**伝統文化の価値を正しく伝え継承**します。

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

（文化戦略2） 文化拠点形成の中心として……街づくりのハブ

取組3 文化拠点化への貢献 ㊟

各館の近隣地域が文化拠点となり、街づくりや地域の活性化に貢献し、地域の魅力を高めるよう関係機関と連携して取り組みます。各地域で特色のある取組を推進するとともに、財団として相互にノウハウを共有し、東京全体の文化のプレステージを高めていきます。

【展開例】 ※概要は提案課題3-3、詳細は各館の事業計画書「地域等との連携の取組」を参照

- 上野……………東京都美術館・東京文化会館・アーツカウンシル東京
⇒ 上野文化の杜新構想の実現、東京文化資源区構想との連動(谷根千、湯島、本郷等)
- 池袋……………東京芸術劇場・アーツカウンシル東京
⇒ 東京芸術祭(仮称)(舞台芸術分野)の開催、立教大学との連携
- 渋谷・原宿……………東京都写真美術館
⇒ 恵比寿国際映像祭の開催(エリア拡充、地域企画)、
あ・ら・カルチャー文化施設協議会
- 港・品川……………東京都庭園美術館
⇒ 港区ミュージアムネットワークへの参加、近隣各国大使館への働きかけ
- 両国・深川・錦糸町…東京都江戸東京博物館
⇒ 両国にぎわい祭りへの参加、近隣ミュージアムとの連携、舟運を活用した回遊性
東京都現代美術館
⇒ MOTサテライトの展開

（文化戦略3） あらゆる人々が芸術文化を享受……カベを超えて

取組4 多言語対応・外国人利用者への配慮 ㊟

外国人旅行者の急増、また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、**今期指定管理期間に先立ち**、利用ニーズを踏まえ、都立文化施設の多言語化を体系的に整備し、言葉のカベを超えた文化の理解を図ります。また多言語による表記にとどまらず、文化の多様性をふまえたサービス向上やコミュニケーションについても外国人モニター調査等を踏まえ、取り組んでいきます。コインロッカーや音声ガイド等の利用、窓口スタッフの対応、ショップ・レストラン等での対応を含め、欧米・アジア諸国の文化施設の対応水準を見据え、財団全体として対応方針を策定し、各館の利用実態や今後の動向を踏まえ、対応計画を策定し、取り組んでいきます。

【参考:取組予定】

- 平成27年度:事務局…外国人実態調査、ニーズ調査、情報源調査、国内外事例調査→取組の基本方針策定
- 平成28年度:各館…対応計画の策定→予算要求
- 平成29年度～:整備実施、効果検証、改善

取組5 バリアフリー化の推進 ㊟

超高齢社会を迎え、また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、**今期指定管理期間に先立ち**、主に**事業や運営に関し、都立文化施設のバリアフリー化を促進**し、あらゆる人々が芸術文化に触れることができる環境づくりに取り組みます。施設面のバリアフリー化は改修工事に伴い東京都が取り組むとともに、今後、必要な措置は東京都に提案いたします。利用のニーズを踏まえ、財団全体として対応方針を策定し、各館の利用実態や今後の動向を踏まえ、対応計画を策定し、取り組んでいきます。

【参考:取組予定】

- 平成27年度:事務局…バリアフリー対応・ニーズ調査→取組の基本方針策定
- 平成28年度:各館…対応計画の策定→予算要求
- 平成29年度～:対応、効果検証、改善

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

取組6 ハリアフリーを志向するアートへの取組 ◎

専門的な美術教育の経験や障害の有無にかかわらず、優れた作品の作り手の営みに光をあてるなど**誰もがアートに関わり、享受できる場**としての存在感を発揮していきます。

【展開例】

○東京都現代美術館

アールブリュットへの取組については、現在東京都で取組方針を検討しており、方針が示されたらそれに沿って現代美術を専門とする館としての知見を活かし、どのような対応が可能か提案

○東京都美術館

「アーツ&ケア」というテーマで企画展を断続的に開催し、アーティストの活動のみならず、障害を持つ人や高齢者などの表現に焦点をあて、アートとケア(新しい価値観との出会い、学び)をコンセプトに多彩な作り手を紹介

取組7 教育普及プログラムの展開 ◎

指定期間を通じ、財団全体で教育普及プログラムを展開し、子供や青少年が**芸術文化に主体的に関わる**ことができる場を充実させます。これにより「東京文化ビジョン」文化戦略3にある、「教育プログラム(仮称)」の確立に寄与いたします。

【展開例】

以下の取組について費用対効果や実現性を精査し、効果的な実施計画を策定して実現を図ります。

- ・財団全体で「**仮称 ユースプロジェクト**」を実施・・・子供たち文化施設デビューを応援する事業、青少年の文化施設の利用を促すサービス等 ※詳細は提案課題6-1の2を参照
- ・総合的な情報発信・・・各館プログラムを一覧するウェブサイト、スクールプログラムの一斉告知
- ・各館教育プログラムを紹介する場を設定(ティーチャーズ・デー、親子デー等)
- ・児童生徒、障害を持つ方向けに来館手段の確保を検討(バス借上げ等)
- ・共通テーマを設定した各館連携プロジェクトの展開(例:バリアフリー、ユニバーサルデザイン等への対応)
- ・アウトリーチ活動・・・都立文化施設外での活動も積極的に行い、学校の他にも、病院や各種施設等の外出ができない状況下の子供たちも豊かな文化体験が得られるよう出前授業やワークショップ等を状況に応じて実施。音楽やパフォーマンスアーツに関してはプログラムを作成し、アーティストを派遣。
- ・学習支援ツールの整備・・・各館の収蔵資料のパネル化や、レプリカ作製、データのダウンロード等、学校等での学習がより充実したものになるよう物資、ノウハウの面から支援。また貸与先として、市区町村の教育委員会や文化施設とも連携し、地域の文化活動の興隆の後押しに取り組む。
- ・半年から一年単位で文化とじっくり向き合えるプログラムを実施。資料や作品、文化と対峙し、考え、表現する機会を提供。展覧会を作る、解説オーディオガイドをつくる、公演を行うなど、本格的な成果を目指す。
- ・異なる年齢層や地域、言語、分野等を越えて一緒に芸術文化活動をするプロジェクトを展開することに取り組む。(若年層と高齢者、区と島しょ、伝統技術と革新技術、博物館と地域、食事と文化など)

取組8 デジタルアーカイブの充実

都立美術館・博物館の収蔵品管理システムを充実させるとともに、各館の収蔵品を**横断的に検索**できるデジタルアーカイブを充実させていきます。画像点数を増やすなど、利便性を向上させることで、国内外からのアクセスを促し、教育や文化活動へ貢献することができます。先進事例の調査、専門家による助言等を得て次の10年を見越したデジタルアーカイブの構築に取り組みます。

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

（文化戦略4） 新進若手の発掘・育成……人を育む

取組9 新進若手アーティストの発掘

指定期間を通じ、美術館・ホールを中心に若手・新進アーティストを国内外から発掘・育成し、**新たな創造と活躍の場**を提供していきます。財団事務局のコーディネートにより、総合的・継続的に発信していきます。一体となった広報展開や相互入場を促すプロモーション、紹介したアーティストのまとまった発信などスケールメリット活かして取り組みます。

【展開例】 仮称「**ニューフェイス・シリーズ**」 ※詳細は各館の事業計画書を参照

- 東京都写真美術館……日本の新進作家のグループ展
- 東京都現代美術館……MOTアニュアル
- 東京都美術館……公募団体新進作家紹介展
- 東京文化会館……東京音楽コンクール
- 東京芸術劇場……新進舞台芸術家紹介(演劇、ダンス等)

取組10 専門人材の育成 ◎

国内外の若手を対象にした文化事業の専門人材の育成に、各館の取組を活かつつ、財団で一体となって取り組みます。財団のスケールメリットを活かし、美術館・博物館、ホールやアーツプロジェクトのほか、マネジメント分野も対象とし、**実践に即しかつ分野を横断**した当財団ならではの**総合的な育成プログラム**を構築します。

また、今期の指定管理期間中に都内の複数大学に働きかけ、**大学の理論と現場の実践が融合**し、芸術文化領域の高度な**専門職養成機関の設立を検討**します。現職者のリカレント教育も視野に入れ、専門職学位を付与する等、これまでにない総合的な養成の場を目指します。

【展開例】 仮称「**東京芸術文化スクール**」

- 美術館・博物館…キュレーター、エデュケーター等の育成
- ホール…舞台技術者・制作者、ワークショップ・リーダー等の育成
- アーツカウンシル東京…文化プロジェクトのコーディネーター等の育成
- 各施設・事務局…広報、地域連携、経営管理、利用者調査、財務、施設管理等を担うマネジメント・スタッフの育成

（文化戦略5） 国際的な芸術文化交流……国を超えて

取組11 国際的な展覧会・公演の開催 ◎

指定期間を通じ、財団全体で国際的な事業を展開して、世界の優れた芸術文化を紹介するとともに、東京から世界に文化を発信するとともに、**文化多様性の視点から、異文化間の相互理解の促進**を図ります。このプロジェクトは、財団事務局のコーディネートにより、総合的に発信していきます。

これまで培ってきたネットワークを最大限に活かし、欧米はもとよりアジア諸国との連携を強化し、個別の事業趣旨をふまえ展望と戦略をもって、個別の事業を展開していきます。

【展開例】 仮称「**インターナショナル・プロジェクト**」 ※詳細は各館の事業計画書「地域等との連携の取組」を参照

- 東京都江戸東京博物館……アジアの博物館・欧米の博物館とのネットワークづくり、国際的な展覧会の開催
- 東京都写真美術館…海外連携プログラム、国際シンポジウム、国際的な展覧会の共同企画・巡回展、アジアにおける写真のハブ
- 東京都現代美術館…日本文化発信のための拠点としての事業、国際交流事業
- 東京都美術館……国際的な特別展の開催
- 東京文化会館……舞台芸術の共同制作、先駆的な教育プログラムの実施
- 東京芸術劇場……制作作品の海外上演、海外劇場作品の来日公演、国際共同制作、世界の音楽大学との交流

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

（文化戦略6） 社会や都市の課題に芸術文化の力を活用……社会への活力

取組12 社会包摂の取組

乳幼児から高齢者、障害者、外国人、また経済的な弱者を含め、多様な人々が芸術文化に出会い、さまざまな体験を通じ、**社会へ主体的に参加できる環境**を構築します。またそうした取組を通じ、人々のつながりを創造できる担い手を養成します。

【展開例】

- 東京都美術館……インクルーシブ・ソサエティ(社会包摂)に向けて
「シルバーデー」や「障害者鑑賞会」により高齢者や障害をもつ方の鑑賞体験の機会を提供。
また、「とびらプロジェクト」、「Museum start あいうえの」でアートを介し、誰もが文化の担い手として認められ、社会へ参加できる機会を増大。他機関と連携し、美術館活動の価値を再発見しながら、社会の課題解決に向けた実験的な試みを行う。
- 東京文化会館……社会的課題解決に取り組む拠点として
福祉機関と連携し、高齢者や障害者等を対象とした鑑賞型、体験・参加型事業を企画・制作し、音楽芸術をツールとした豊かな心の醸成の機会を幅広く提供。区市町村、学校教育・福祉等との積極的な協働による活発な活動と、人材と作品や企画を全国に還元する拠点として機能する。そのため専門的な人材の確保はもとより、円滑な活動の基盤を整備。

取組13 超高齢社会への対応

我が国は、かつてないスピードで超高齢社会を迎えます。そうした社会において芸術文化はどのような役割を果たし、貢献ができるか。世界最先端の課題となります。この課題への取組は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして世界に先んずる意義があります。財団では、①高齢者の積極的な社会参加を促す取組、②高齢者に鑑賞体験を促す取組、③鑑賞・観覧体験を通じた認知力の向上、の3つの視点でアプローチしていきます。医療機関や研究機関、アートNPO等と連携し、こうした取組を積み重ねることで、高齢者の社会参加や認知症等への対応を促し、**健康寿命を延ばすこと**によって福祉や医療のコスト軽減に貢献するよう努めます。

【展開例】

- ①各館の参加体験型事業・交流事業、美術館・博物館のボランティア活動等
→ 東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館
- ②高齢者に快適な鑑賞体験を促す取組(シルバーデー、高齢者施設等による団体鑑賞のサポート)
→ 東京都庭園美術館、東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館
- ③鑑賞・観覧体験を通じた認知力の向上
→ 回想法を取り入れた観覧プログラムの研究……東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園
認知症発症者向けの対話型鑑賞プログラムの研究……東京都庭園美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

取組14 地域経済への貢献

近年、文化芸術の力が、地域を活性化させ、地域経済に貢献することが明らかになってきました。都立文化施設も、国内外から多くの利用者を集め、地域になくてはならない存在となっています。都立文化施設が街づくりのハブとなるような取組や魅力のある事業の実施などを通じ、多くの**集客に努め、地元の商店街等と連携**し、地域経済の活性化に貢献していきます。

(その他「文化戦略6」に該当する取組)

取組3 文化拠点化への貢献、取組6 バリアフリーを志向するアートへの取組、取組7 教育普及プログラムの展開

(文化戦略7) 先端技術と芸術文化との融合……多様な分野での展開

取組15 多様な分野が融合した事業展開 ◎

先端技術と芸術文化の融合をテーマにした展覧会など、美術の分野に止まらず、デザイン、ファッション、映画、舞台、ゲームなど**幅広い分野を視野**に入れた事業を展開します。

【展開例】

○東京都現代美術館 ……展覧会・イベント

ファッション、音楽、建築、メディア芸術、パフォーマンスほか、多様な分野と先端技術が融合する新たな創造を提示する展覧会及びイベント、研究機関や企業等と連携して実施

○東京都写真美術館……「恵比寿国際映像祭」

優れた映像表現を継承し、先端技術と映像の融合など、映像分野の創造活動を活性化

(文化戦略8) 史上最高の文化プログラムを実現……都市を劇場に

取組16 各館ミッションに則し、都市を劇場に

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムとして2019年のプレ大会、2020年の本大会において、都立文化施設は、各館のミッションに則し、都市を劇場とした**先進的で他に類を見ない魅力的な事業**を展開し、東京の魅力を世界に発信していきます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

2. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組

「東京文化ビジョン」の実現に向けた取組を基本としながら、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連事業として、2020年の大会期間中を中心に以下のことに取り組みます。

なお、事業の実施に必要な財源及び人員の措置については、今後、東京都にもご負担いただく分を含め、協議してまいります。

(1) 都立文化施設の共通の取組・・・「日本のオリジナリティ」を示す作品、アーティストを紹介

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間中、その前後に**日本ならではの作品や日本を代表するアーティストや新進作家の作品**を都立文化施設で一斉に紹介していきます。これにより、都市型総合芸術フェスティバル「東京芸術祭(仮称)」の一翼を担います。日本の歴史や文化に詳しくない人にも、理解できるよう、基本的な知識や背景、文脈などをわかりやすく示すよう工夫していきます。

財団全体で**総合的・統一的に発信**することにより、都立文化施設による取組を際立たせていきます。一体となった広報展開や相互入場を促すプロモーションなどスケールメリット活かして取り組みます。

【展開例】 仮称「ジャパン・オリジナル・プロジェクト」 ※詳細は各館の事業計画書を参照

- 東京都江戸東京博物館・・・日本の美 珠玉の浮世絵
 - 江戸東京たてももの園……………MUKASHIKURASHI
 - 東京都写真美術館……………日本を代表する作家の個展、日本の新進作家のグループ展
 - 東京都現代美術館……………日本を代表する作家の個展、MOTアニュアル
 - 東京都美術館……………日本や東洋の美術を紹介する特別展、公募団体新進作家紹介展、伝統文化体験
 - 東京文化会館……………「日本」に焦点をあてた舞台芸術作品の創造、新進音楽家紹介
 - 東京芸術劇場……………新進舞台芸術家紹介(演劇、ダンス等)
- (参考)東京都庭園美術館・・・日本の現代作家展、トーキョーワンダーサイト・・・若手アーティスト紹介

(2) 国際的な展覧会・公演の開催

オリンピック開催の前後に国際的な事業を断続的に展開して、世界の優れた芸術文化を紹介するとともに、東京から世界に文化を発信し、異文化間の相互理解の促進を図ります。財団一体で取り組み、**開催時期等を工夫し効果的に展開**していきます。また、総合的・統一的に発信することにより、都立文化施設による取組を際立たせていきます。一体となった広報展開や相互入場を促すプロモーションなどスケールメリットを最大限に活かして取り組みます。

【展開例】 仮称「インターナショナル・プロジェクト」

- 東京都江戸東京博物館……………世界と交流する文化の祭典
- 東京都写真美術館……………恵比寿国際映像祭、国際的な展覧会の共同企画・巡回展
- 東京都現代美術館……………国際的な連携交流事業
- 東京都美術館……………国際的な特別展の開催
- 東京文化会館……………舞台芸術の共同制作、先駆的な教育プログラムの実施
- 東京芸術劇場……………制作作品の海外上演、海外劇場作品の来日公演、国際共同制作、世界の音楽大学との交流

(3) パラリンピックと連動した文化事業

パラリンピック開催を通じた共生社会づくりと連動し、文化の面でも世界に発信できるプロジェクトを展開します。

【展開例】

- 東京都現代美術館……………アールブリュットへの取組
- 東京都美術館……………企画展「Walls & Bridges展」(仮称)
 - アーティストによる作品のほか、高齢者や障害を持つ人の手による表現の深みに焦点をあてる
- アーツカウンシル東京・・・TURN
 - 障害・健常の別なく人々が関わり合い、「生来の力」を発揮し合うプログラムを展開

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

(4) 都市型総合芸術フェスティバル「東京芸術祭(仮称)」の展開(再掲)

各館のこれまでの取組を活かし、2020年は財団全体で「東京芸術祭(仮称)」を多角的に展開していきます。

【展開例】 ※詳細は各館の事業計画書「地域等との連携の取組」を参照

- 歴史・伝統文化・・・東京都江戸東京博物館、江戸東京たてももの園
- メディアアート・テクノロジー・・・東京都写真美術館(恵比寿国際映像祭)、東京都現代美術館
- 現代美術・・・東京都現代美術館(MOTサテライト)、東京都美術館、東京都庭園美術館、
トーキョーワンダーサイト
- 舞台芸術・・・東京文化会館、東京芸術劇場

(5) 各施設等の代表的な取組・・・ミッションに則した発信

2020年に向けて、都立文化施設では、各館のミッションに則し、**特色ある取組を展開し**、都市型総合芸術フェスティバル「東京芸術祭(仮称)」の一翼を担います。

【展開例】 ※詳細は各館の事業計画書を参照

- 東京都江戸東京博物館・・・日本の美 珠玉の浮世絵(再掲)
- 江戸東京たてももの園・・・MUKASHIKURASHI(再掲)
- 東京都写真美術館・・・国際ネットワーク事業、フェスティバル事業「恵比寿国際映像祭」
- 東京都現代美術館・・・日本文化発信のための拠点としての事業、国際交流事業
- 東京都美術館・・・日本や東洋の美術を紹介する特別展(再掲)、企画展「Walls & Bridges」展
- 東京文化会館・・・海外劇場との共同制作、日本の伝統文化を融合した舞台芸術作品の創造
- 東京芸術劇場・・・
オープンヴェニュー、読響連携企画、大道芸でにぎわいづくり

(6) 「おもてなし」への対応・・・サービス向上

オリンピック・パラリンピック開催期間中は、国内外から多くの方が東京に集まることが予想されます。**インバウンド効果による観光への貢献**、また**あらゆる人が文化プログラムをストレスなく楽しむ**ことを目指し、財団事務局のコーディネートにより、財団全体で次のような取組を行います。また、こうした取組の成果をレガシーとして2020年以降にも都立文化施設の運営に活かしていきます。

○多言語対応・外国人利用者への配慮(再掲)

外国人旅行者の急増、また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、**今期指定管理期間に先立ち**、利用ニーズを踏まえ、都立文化施設の多言語化を体系的に整備し、言葉のカベを超えた文化の理解を図ります。また多言語による表記にとどまらず、文化の多様性をふまえたサービス向上やコミュニケーションについても外国人モニター調査等を踏まえ、取り組んでいきます。コインロッカーや音声ガイド等の利用、窓口スタッフの対応、ショップ・レストラン等での対応を含め、欧米・アジア諸国の文化施設の対応水準を見据え、財団全体として対応方針を策定し、各館の利用実態や今後の動向を踏まえ、対応計画を策定し、取り組んでいきます。

【参考:取組予定】

- 平成27年度:事務局・・・外国人実態調査、ニーズ調査、情報源調査、国内外事例調査→取組の基本方針策定
- 平成28年度:各館・・・対応計画の策定→予算要求
- 平成29年度～:整備実施、効果検証、改善

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2〔運営戦略〕 2 東京文化ビジョンの実現及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた運営戦略と取組について

○バリアフリー化の推進(再掲)

超高齢社会を迎え、また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、**今期指定管理期間に先立ち、主に事業や運営に関し、都立文化施設のバリアフリー化を促進**し、あらゆる人々が芸術文化に触れることができる環境づくりに取り組みます。施設面のバリアフリー化は改修工事に伴い東京都が取り組むとともに、今後、必要な措置は東京都に提案いたします。利用のニーズを踏まえ、財団全体として対応方針を策定し、各館の利用実態や今後の動向を踏まえ、対応計画を策定し、取り組んでいきます。

【参考:取組予定】

平成27年度:事務局・・・バリアフリー対応・ニーズ調査→取組の基本方針策定

平成28年度:各館・・・対応計画の策定→予算要求

平成29年度～:対応、効果検証、改善

○写真撮影の拡大

欧米等の美術館・博物館は、常設展示室内での写真撮影を概ね許可しており、またSNS等による情報発信の効果があることから、都立美術館・博物館も収蔵品を中心に、**撮影可能な対象を広げていくよう、関係先と調整**を図ります。特に作品・資料の新規収蔵において、写真撮影や画像公開の権利処理に対応していきます。

○開館時間の延長

東京への訪問者が夏の大会期間中にスポーツと併せ文化を楽しめるよう、都立文化施設の開館時間の延長による夜間利用等に向けた体制を整備します。**利用者ニーズに合わせて付加価値を高め**、採算性も考慮しながら、効果的に実施します。ターゲット層を若者や外国人旅行者に設定し、効果的に告知します。関連イベントやレストラン・カフェでの特別サービス、近隣の商店街との連携に取り組みます。近隣や他のエリアの美術館・博物館も一斉に夜間開館を行うよう呼びかけ、キャンペーン展開を図り、効果的にPRしていきます。毎年継続して実施することでレガシーとして定着を図ります。

また、夏期以外にも各館の展覧会や催しに応じて、効果的に開館時間を延長し、年間を通じた東京のナイトライフの魅力の向上を図ります。

○決済手段の多様化

外国人旅行者からのニーズが高い**クレジットカード決済**やSuicaやPASMO等の**ICカードによる決済**が全施設でできるよう取り組み、利便性の向上を図ります。諸規定や手数料など導入に向けた課題を早急に確認し、できるだけ早い時期での導入を目指します。

(7) 観光資源としての施設の活用・・・ユニークメニュー等の取組

○施設の積極的な活用

各施設の**エントランスや広場等**を東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催の気運醸成、開催期間中のイベント等の開催を想定し、積極的に活用することを検討いたします。

(展開例:参考)

東京都庭園美術館・・・オリンピック関係のレセプションやパーティーなどに庭園や茶室、レストランを供することができるよう条件を整備

○舟運による回遊の促進

東京都江戸東京博物館では、隅田川の舟運による回遊性の確保に協力します。舟運を利用した旅行者を引き込み、常設展示等を活用して、江戸時代の舟運の役割について説明します。また、北斎美術館や刀剣博物館等、近隣に新設される施設等とも連携し、両国・深川地域の旅行者の回遊を促進させます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3〔事業等の連携〕 1 東京都との連携について
(1) 東京都の文化振興施策との連携

1. 基本方針

「東京文化ビジョン」をはじめ都のあらゆる文化振興施策と連携・協力

財団は、設立当初から都立文化施設の管理受託を担うとともに、平成18年度からは全都立文化施設の指定管理者として適切な管理・運営を行い、設置者である東京都より高い評価を受けてまいりました。また、この間庭園美術館やトーキョーワンダーサイトも含めた各館の事業連携など、スケールメリットを活かした魅力的な事業展開を行うとともに、アーツカウンシル東京の新設及び芸術文化団体への助成を開始するなど、東京の文化の魅力の創造・発信に大きく貢献してまいりました。

今期指定管理期間では、東京都との「政策運動型」による事業の展開が予定されております。財団としては、今後も引き続き指定管理者として全都立文化施設の適切な管理・運営に邁進するとともに、庭園美術館、トーキョーワンダーサイト、アーツカウンシル東京など指定管理施設以外も含めた魅力的な事業の企画立案・提案などにより、東京都と常に手を携え行動を共にし、「東京文化ビジョン」をはじめ、東京都の文化施策に積極的に参画してまいります。

2. 取組

(1) 「東京文化ビジョン」の各事業を着実に実施

「東京文化ビジョン」を早期かつ着実に実現するため、速やかに企画・検討に着手し、各年度の事業計画に反映させてまいります。また、指定管理期間開始前に先行して実施できるものは、早々に着手してまいります。

これらの事業の企画・実施に当たっては、東京都と綿密に調整・議論等を行い、常に両者が手を携えながら進めてまいります。

(2) 都立文化施設の新たな運営方針に沿った館運営を実施

東京文化ビジョンで示された新たな運営方針を十分踏まえ、各館の基本方針を策定し、これに沿って適切な館運営を行ってまいります。

(3) オリンピック文化プログラムの企画への参加及び展開

東京都・大会組織委員会・文化庁・各芸術文化団体など関係機関と常時密接に連携しながら、オリンピック文化プログラムの実現、そして成功に向け、財団として積極的に参画や意見提言等を行ってまいります。

(4) アーツカウンシル東京を更に充実させ、東京からの文化の発信・創造をさらに強化

都立文化施設では、旧文化発信プロジェクト室によるパイロット的な事業を立ち上げ、その成果を踏まえ、本格的に創造・発信を行ってきました。また、平成27年度から、新たに「東京地域芸術文化助成」や「芸術文化による社会支援助成」枠を設定するなど、更なる事業展開を図っています。引き続き、各助成を通じた文化活動の更なる促進を図るとともに、その中心的な担い手となるアーツカウンシル東京を更に充実・強化させ、世界的な芸術文化都市としての東京の魅力をさらに高める多様な事業を展開してまいります。今後もアーツカウンシルによる事業と都立文化施設が柔軟に連動することで、総合的な発信力を高めていきます。

(5) 都・財団の両者でPDCAサイクルを回し、後年度計画に反映

都の主要政策と連動する施設であることを踏まえ、従来財団で行ってきた内部評価・外部評価に加え、都の指定管理者運営状況評価による評価や専門有識者等からの意見・指摘等の積極的な取り込みを行ってまいります。これによって、都・財団の両者間における適切な緊張関係が確保されるとともに、両者による事業実績等のチェックや後年度計画の修正等を行い、より効果的なPDCAサイクルを実現してまいります。また、10年間の指定管理期間を前期5年・後期5年に分け、東京都と協議し、これまでの評価等を踏まえ中間年に事業計画の見直しを行う予定です。東京都の今後の文化政策の動向を見据え、財団の事業を展開していきます。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
----------	-----------------

提案課題3〔事業等の連携〕 1 東京都との連携について
(2)「東京都長期ビジョン」など、その他の東京都諸施策との連携

1. 基本方針

東京都の各種政策に積極的に協力

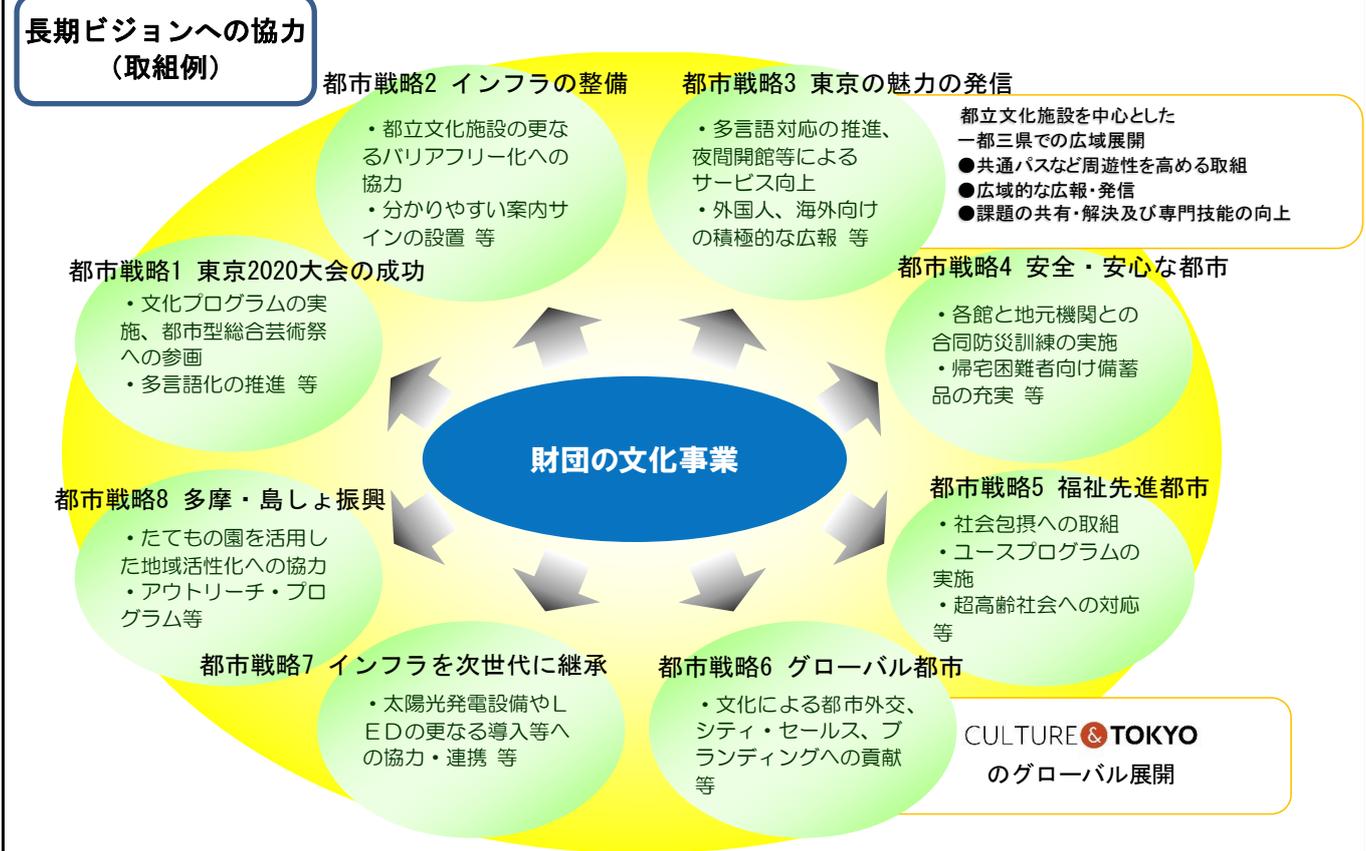
財団は、指定管理者であるとともに、公益財団法人であり東京都監理団体でもあります。これまでも公益性の確保や都政への貢献の観点で常に持って各文化事業を展開し、役割を果たしてまいりました。

今後も引き続き、指定管理者として東京都の文化施策の実現を目指すとともに、**文化事業を基軸**として、おもてなし・観光・産業振興・街づくり・福祉・環境・防災・教育など、**より広く都政に関わり協力**することにより、多くの都民の方々に貢献し、喜んでいただけるよう取り組んでまいります。また、東京都と緊密に連携し、状況に応じ都の指示等を踏まえ、具体的な取組に積極的に協力していきます。

2. 取組

「東京都長期ビジョン」への積極的な貢献

全ての都市戦略への貢献を目指し、実施に向けて**東京都と綿密に調整**するなど、東京都長期ビジョンの実現に積極的に協力します。



「東京ブランド」の確立に向け、「東京文化ビジョン」に基づく各種プロジェクト等をブランドコンセプトの共有の場として活用し、理解や共感を深め、都民や民間事業者等とも連携・協力して統一的なイメージを効果的に訴求していくなど、東京都の監理団体としての取組を推進してまいります。

なお、東京都長期ビジョン以外でも都政全体の動向や課題などについて常に注視し、都政に協力していきます。協力にあたり、東京都監理団体としての立場を最大限に活かし、**東京都の各部署や他の東京都監理団体等**と連携し、積極的に進めてまいります。

- 【協力例】**
- 学校教育との連携** → 東京都教育委員会、東京都私学財団
 - 観光客誘致、周遊性の向上** → 産業労働局観光部、東京観光財団、都営地下鉄、東京メロ
 - スポーツイベント等との連動** → オリンピック・パラリンピック準備局、東京都スポーツ文化事業団、東京マラソン財団
 - アウトリーチコンサート** → 都営地下鉄、東京メロ、東京都保健医療公社

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題3〔事業等の連携〕 1 東京都との連携について
(3)大規模改修をはじめとする都施工工事等への協力体制

1. 考え方と体制

都施工工事等への考え方

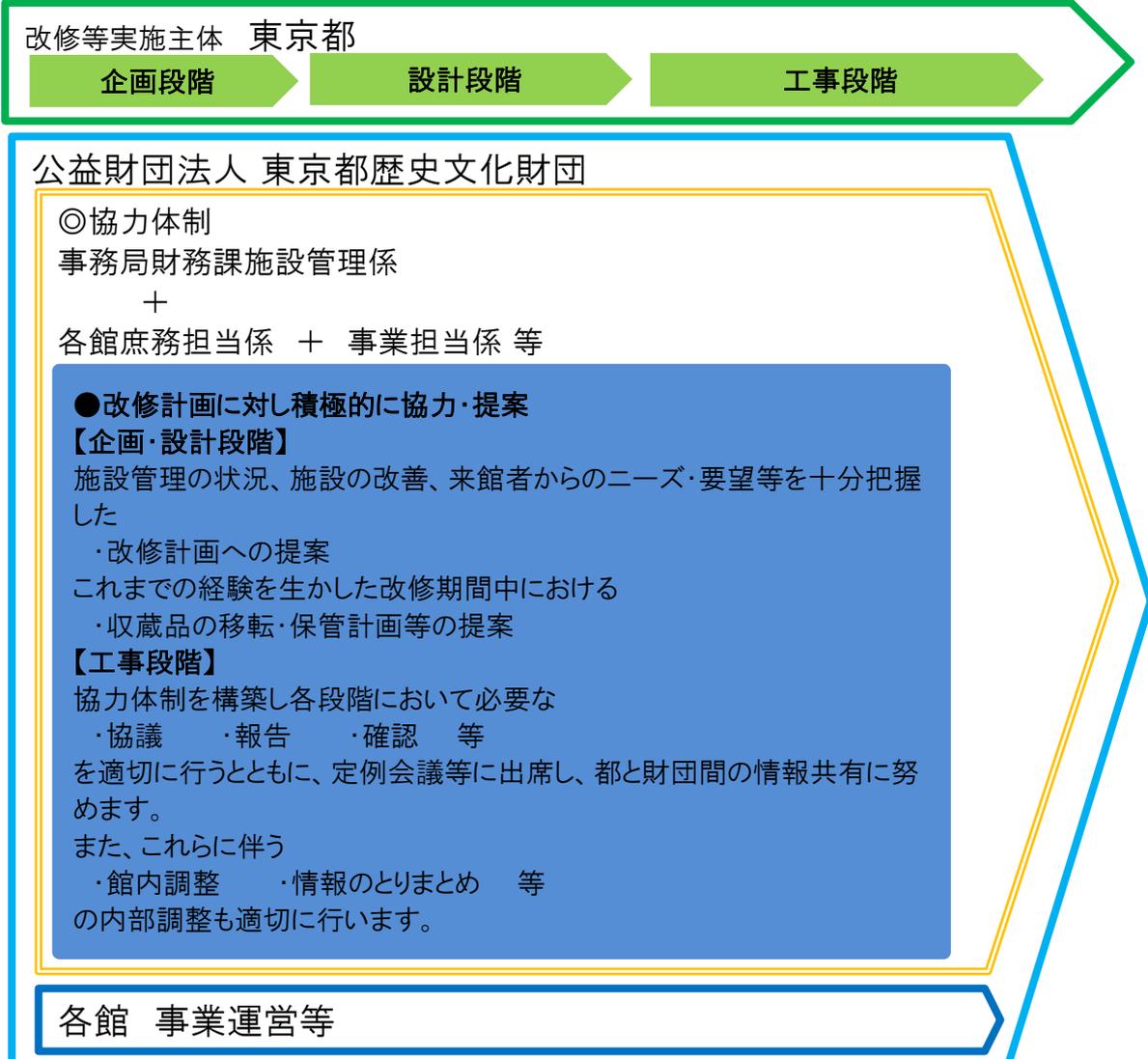
東京都では、都立文化施設の長寿命化や行政施策を反映した施設整備等を推進するため、大規模改修や部分改修、設備更新など、様々なレベルの改修を計画的に進めています。これら大規模改修等を確実に進めていくためには、各館のハード・ソフト両面における特性や現況を熟知した指定管理者が、計画段階から積極的に協力をしていくことが重要と考えます。

当財団は、これまでの指定管理期間を通じて培った、各館の施設管理の状況や来館者からのニーズ・要望等を、適切に情報提供するのはもちろん、大規模改修工事期間中の収蔵品の移転・保管計画の提案も行うなど、大規模改修等の企画・設計・工事の各段階において、積極的に協力していきます。

都施工工事等への協力体制

各館の体制は、計画・設計段階では、事務局財務課施設管理係の支援の下に、各館庶務担当係が中心となり、館内担当部署、建物管理等受託者等からの情報をとりまとめます。また、設計業務等の進捗状況に合わせて、館の専門分野ごとにその関係職員等が直接参加する分科会を設置するなど、設計業務等が円滑に進むように協力します。

工事段階では、定例会議等の打合せには、事務局財務課施設管理係及び各館庶務担当係の職員が出席し、東京都との情報共有に努め、改修計画全体が円滑に進むよう最大限協力します。



事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
----------	-----------------

**提案課題3〔事業等の連携〕 2 都立文化施設等の連携について
(1)6館及び歴史文化財団の業務の仕組み**

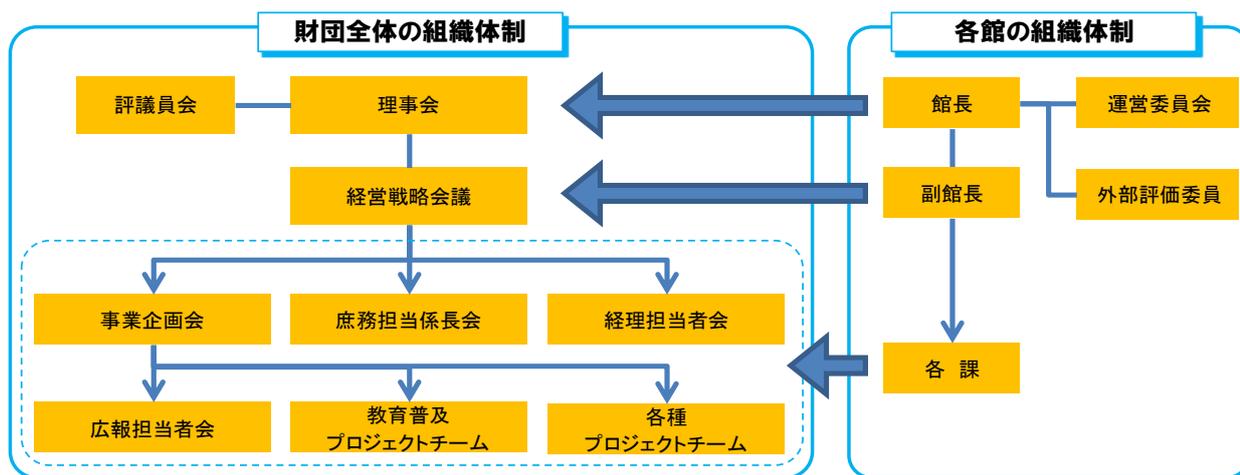
1. 基本方針

6館がそれぞれの特色を活かしながら事業計画の作成や管理運営等を行うと同時に、財団全体としての統一した運営方針の下、スケールメリットを最大限に発揮していきます。指定管理対象施設にとどまらず、当財団が管理・運営する庭園美術館、トーキョーワンダーサイトやアーツカウンシル東京も含め、財団が一体となって様々な連携に取り組み、相乗効果を発揮し、他ではなしえない魅力的な事業展開を図ります。**事務局によるコーディネート機能**を十分に発揮できるように、**横断的な仕組みを構築**し、運用していきます。

2. 財団内での意思決定・責任体制及び連携の方法

職層、業務別に各館が横断的に集い、それぞれの責任・役割に応じて活発に調整・検討・議論等を行い、財団全体として**統一かつ効率的な事業展開**を実現いたします。また案件に応じ、随時東京都とも調整しスピーディーな意思決定を図ってまいります。

財団の各事業の連携、スケールメリットを活かした全体の取組については、各館事業企画課長からなる事業企画会で検討し、**戦略的かつ効果的な事業展開**を図ります。



各会議の概要

	会議名	目的	構成員	開催頻度
最高意思決定機関	評議員会・理事会	財団の基本方針、予算・決算を決議	評議員、理事長、副理事長、館長等理事、監事	年2回
執行機関	経営戦略会議	理事会で決定した基本方針を具現化し、日々の事業展開の中心となり、様々な課題を審議	副理事長、各館副館長、事務局幹部	毎月
事業運営・調整・連携機関	事業企画会	財団全体としての事業戦略の企画調整。効果的な事業展開、連携事業の企画立案。実施における調整。※適宜、美術館・博物館部会、ホール部会を開催	各館事業企画担当課長、事務局幹部	年4回程度
	広報担当者会	共通広報の検討、広報事務に関する情報交換、先進事例の紹介、ノウハウの共有	各館広報担当者、事務局職員	年4回程度
	教育普及プロジェクトチーム	教育普及事業の連携・実施に向けた検討、テーマ設定による取組、ノウハウの共有、スキルアップ	各館教育普及担当者、事務局職員	年4回程度
	各種プロジェクトチーム	財団懸案課題に関する情報共有、意見交換、解決に向けた検討	課題に応じて決定	随時
	庶務担当係長会	財団全体の事業・事務について情報共有を図るとともに、経営戦略会議で方針が示された課題について、具体化に向け検討	各館庶務担当係長、事務局職員	毎月
	経理担当者会	経理事務に関する情報交換、予算・決算に関する全体調整	各館経理担当者、事務局職員	年4回程度

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

**提案課題3〔事業等の連携〕 2 都立文化施設等の連携について
(1)6館及び歴史文化財団の業務の仕組み**

3. 東京都との連携・調整

東京都との**定期的な意見交換、調整の場を設け、東京都と緊密に連携**を図ってまいります。また、財団の定例的な会議への参加を東京都に呼びかけ、同席いただき、必要な情報を共有いたします。さらに、日常的に会議以外でも、取材や事故の報告など緊急を要する事項は、随時迅速に報告し、対応いたします。

今後、10年間の指定管理期間においては、都政の動向と関連し、即応性が求められる課題への対応が想定されます。そうした課題に対しても、柔軟に受け止め、財団の専門的知見を十二分に活かし、迅速かつ着実に連携体制の確立や情報共有を進め、財団全体の総合力を発揮し解決します。都政と連動させた事業を効果的に組み立てることを意識し、東京都の文化政策の実現に寄与してまいります。

また、施設運営において緊急を要する事態も想定されます。こうしたときも東京都と迅速に情報を共有し、東京都との連携体制のもとで早急に課題の解決を図ります。

①都との定例的な連絡調整

名称	趣旨	構成員	頻度
経営戦略会議	財団全体及び各館運営上の重要事項に関する意見交換、情報共有	副理事長、各館副館長、事務局幹部 文化振興部幹部	毎月
都・財団実務担当者会議(仮称)	都と財団の比較的重要な事項に関する協議、調整、情報共有	財団事務局及び文化振興部の課長・係長	概ね四半期ごと

②財団の定例的な会議への参加

理事会・評議員会	財団の重要な意思決定の共有	理事・評議員	年2回程度
庶務担当係長会	事務局及び各館担当者による協議・情報共有の場に文化振興部の参加を呼びかけ、より緊密な連携を図る	財団事務局係長、各館庶務担当係長、文化振興部担当	毎月
広報担当者会	事務局及び各館担当者による協議・情報共有の場に文化振興部の参加を呼びかけ、より緊密な連携を図る	財団事務局広報担当、各館広報担当、文化振興部広報担当	四半期ごと

③日常の連絡・報告

連絡調整	日常的な連絡調整、情報共有	財団事務局 文化振興部各部署	随時
取材報告	財団事務局より都へ報告	—	随時
事故報告	各館より速やかに、事務局・都に報告	—	随時

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

**提案課題3〔事業等の連携〕 2 都立文化施設等の連携について
(2)連携の取組について**

1. 基本方針

財団は、都立文化施設を管理運営するスケールメリットを最大限に生かし、都立文化施設全体で**多彩な連携を行い、相乗効果を発揮**します。**センター機能を果たす財団事務局は、各館をコーディネートし企画戦略を打ち立てます。**また、**効率的・効果的な実施に向けて各館をバックアップ**します。

2. 具体的な取組

財団は、東京文化ビジョンの実現に向けた取組の他に、以下の都立文化施設などの連携の取組を行ってまいります。

(1) 共通広報

財団事務局は、各館広報を取りまとめ、**年間プレスリリースや都庁広報との調整**などを行います。また、各館で単独で行うことが困難な部分について財団全体の**スケールメリットを活かし、事務局が主体となって広報**を展開します。また、各館だけでなく、都内の文化施設と連携した広報、上野・墨田・豊島・渋谷などの**エリア毎に文化施設だけでなく地域の様々な情報を発信**することについても検討してまいります。

これまで、共通広報では、都立文化施設の紹介をする紙媒体ART NEWS TOKYO(日本語)及びTOKYO TO GO(外国語)の発行、web媒体Tokyo Art Navigationの運営を行ってきましたが、より効果的な広報を実現するため、時代の流れに則した広報手法を用いて、以下の点を重点化して実施します。

4つの重点的な取組

●公共空間を活用した多様な広報展開

駅、道路、公共施設・各館のアトリウムなどの公共空間で、都立文化施設の取組を一元的に紹介します。

【展開例】

- **デジタルサイネージへの動画配信**
都庁、新宿、渋谷などの繁華街のデジタルサイネージに各館の施設・イベント情報を配信
- **駅の広告スペースに大型ポスター掲示**
- **電車の車内モニターへの動画配信**
都営交通はじめ、都内を走る交通機関の車内モニターへの各館の情報の配信
- **イベントポスターをラッピングしたバスでイベント情報を発信**

●テーマを絞った重点的な広報展開

夏休み・お正月・教育普及(子供・学校)・若者向けなどのテーマに沿い効果的に広報します。

【展開例】

- **夏休み**
夏休み向けイベント、ワークショップ、夜間開館を集中的に取り上げ、ニュースサイトなどに広告を掲載
- **若者向け**
SNSを効果的に活用し、新規ユーザーを開拓
- **教育普及(子供・学校)**
各館の教育普及プログラムを紙媒体や財団ウェブサイトで一元的に発信

●外国人向け、海外向けの広報展開

外国人情報源調査の結果を基に、外国人に向けた広報を強化します。2020年に向けて特に重点課題として捉え本格的に展開していきます。

【展開例】

- **訪日外国人が情報収集している媒体にターゲットを絞り、営業活動や記事広告の掲出、プレスリリースなどを実施**
- **旅行会社や航空会社、ホテル、大使館などと連携し、外国人に向けた広報を展開**
機内誌への記事掲出や国内ツアーへの組込み
- **都立文化施設のイベント情報の多言語での発信を推進**

●一都三県の文化施設連携による広域的な広報

都域や近隣三県の文化施設が同一のテーマで共同でキャンペーンを展開し、利用の裾野を広げるよう関係機関等に働きかけを行います。

【展開例】

- 下記のような同一のテーマを設け、広域のネットワークを生かし広報展開を行う。
- ・夏休み
 - ・夜間開館
 - ・家族向け
 - ・大学生向け

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3〔事業等の連携〕 2 都立文化施設等の連携について (2) 連携の取組について

(2) 利用サービスの向上

財団事務局のコーディネートにより、各館で連携し、**サービスや情報提供を一元化**し、利用者へのサービス向上の多様な取組を検討します。

【展開例】

●チケットの相互販売

各館で他館のチケットを販売する他、各館の友の会会員の相互割引を引き続き実施します。また、交通系ICカードや民間事業者が行っているポイントカードと連携したチケットの販売等のサービスなども視野に入れます。

●スマートフォンアプリによる情報発信

スマートフォンアプリを活用した、チケットの販売やイベント情報を多言語で発信します。

●各館の施設貸出情報の総合的な提供

利用者が各館貸出施設の空状況などを網羅的に把握できるポータルサイトの開設を検討します。

●音楽会場の貸出情報の共有化

主に音楽会場として利用される文化会館の大小ホール、芸術劇場のコンサートホール(大ホール)の貸出情報を共有化し、相互の利点を生かしより戦略的に取り組み、利用率向上を図ります。

●バリアフリー情報の発信

各館が行っている障害者に向けた取組や、バリアフリーマップなどを紹介するページを制作し、財団ウェブサイトのトップページからアクセス可能にするほか、紙媒体を用い一元的に発信します。

(3) 各館連携の促進

財団事務局がコーディネートして、各館相互の連携により、**ジャンル横断的な取組を機会に応じて断続的に行い**、財団のスケールメリットを発揮します。

【展開例】

●コレクションの有効活用

工事休館する東京都現代美術館の収蔵品を東京都美術館や江戸東京博物館で公開する、各館の収蔵品を横断的に紹介する取組を検討するなど、**東京都のコレクションを有効に活用**し、都民、人びとにコレクションの価値を伝えます。

●ホール連携の促進

東京文化会館、東京芸術劇場で**両施設に共通する音楽事業を中心とした連携**に取り組みます。

- ・共通テーマの企画公演
- ・東京音楽コンクールの2会場開催
- ・育成している人材(若手アーティスト等)を起用した主催事業
- ・専門的な人材育成プログラムの共有
- ・制作部門のノウハウ共有
- ・主催事業(音楽、演劇の公演等)の映像アーカイブ構築(実現性の検討、記録、蓄積、公開)

●パフォーミングアーツの実施

ホールの企画制作力を活かし、**美術館・博物館でパフォーミングアーツを紹介**するなど、それぞれの持ち味を活かして、分野横断的な事業展開を図ります。

●分野横断型のプログラム開発

美術鑑賞のワークショップとミュージック・エデュケーション・ワークショップ、演劇ワークショップの手法を融合させ、**分野横断的な新たな教育普及の手法**を開発します。

実施例: 東京都美術館×東京文化会館×国立国会図書館国際子ども図書館 「あいうえの冒険隊」

●障害のある方のための鑑賞機会の拡大

東京都美術館の「障害のある方のための特別鑑賞会」の**ノウハウを他の美術館・博物館に応用**するなど、各館の連携によってサービスの向上を図ります。

(4) 事業充実のための基盤強化

●調査研究(文部科学省による科学研究費の申請資格取得の検討)

博物館相当施設の指定、劇場法の制定を受け、今後の調査研究の充実を図り、事業の質を高めていくため、法人として科学研究費申請資格が得られるよう検討を行います。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3〔事業等の連携〕 3 都立文化施設以外の施設等との連携について

1. 基本方針

財団は、各施設が持つネットワークをさらに強化し、立地する地域を中心に、都立文化施設同士、都内、一都三県、国内、海外と**同心円状に重層的に地域を捉え、各層に応じた役割**を果たしていきます国内外の文化施設・団体・活動等と連携した各種交流などを促進するとともに、東京の芸術文化の魅力を世界へ発信するための活動を行います。

2. 具体的な取組

連携	連携の取組	展開例
海外	海外の文化機関等と連携し、 文化面での都市外交 を推進しながら、芸術文化都市東京の魅力向上・発信を行い、都市東京の シティ・セールスやブランディング に貢献していきます。	
	東京芸術祭（仮称）を通じた発信	都市型総合芸術祭「東京芸術祭（仮称）」を通し、海外のフェスティバルや関係機関と交流し、その成果を発信しています。
	近隣国美術館・博物館との連携	東アジア諸国との美術館・博物館との連携を行い相互交流を深めます。 例：江戸東京博物館・・・北京首都博物館、瀋陽故宮博物館、ソウル歴史博物館と連携しシンポジウムや展覧会等を企画立案 写真美術館・・・コレクション展開プロジェクト
	国際機関への加盟	国際博物館会議（ICOM日本委員会）や国際美術館会議（CIMAM）へ加盟し情報交換、事業実施（国際博物館の日）等の連携を推進します。
国内	経済の中心で文化が集中する首都にある日本有数の施設という特性を活かし、国内における 文化発信、連携の拠点 としての役割を担います。	
	事業の共同制作、巡回	美術館・博物館、ホールでは国内の有力な文化施設等と共同で展覧会・公演等の共同制作を行い、全国規模で巡回させています。
	他都市の文化振興団体との交流	加盟組織：大都市文化振興財団等連絡会、関東甲信越静地区文化振興財団等連絡会
	全国組織への加入	全国的な組織に加入し、会長や幹事となり、中心的な役割を担います。 【ホール】 ○全国公立文化施設協会・・・東京文化会館（会長館）、東京芸術劇場 ○劇場・音楽堂等連絡協議会・・・東京芸術劇場（事務局）、東京文化会館（加盟予定） 【美術館・博物館】 ○日本博物館協会・・・東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館、東京都庭園美術館 ○全国美術館会議・・・東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館、東京都庭園美術館 ○美術館連絡協議会・・・東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館、東京都庭園美術館 ○都道府県美術館副館長等事務者会議・・・東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館、東京都庭園美術館 ○全国歴史民俗系博物館協議会・・・東京都江戸東京博物館（幹事館）

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題3〔事業等の連携〕 3 都立文化施設以外の施設等との連携について		
連携	連携の取組	展開例
一都三県 (東京、神奈川、千葉、埼玉)	東京都が推進する 首都圏文化施設のネットワーク強化 において中核的役割を担っていきます。	
	共通入場券など文化施設の周遊性を高める取組	東京都の推進する一都三県(東京、神奈川、千葉、埼玉)の美術館・博物館等を対象とした共通入場の仕組みなど周遊性を高める取組の実現に協力します。
	広域的な広報・発信	一都三県の文化施設が同一のテーマで共同でキャンペーンを展開、利用の裾野を広げるよう関係機関等に働きかけます。 例:若い観客層を開拓する取組、夜間開館の取組等
	課題の共有・解決及び専門技能の向上	施設の規模や設置者の違いを超え、文化施設に関する課題を共有し、全体の底上げに資するよう交流の場を生み出し、課題解決につなげるべく関係機関に働きかけを行います。 例:広報展開、外国人対応、バリアフリー対応等
都内 (全域)	東京都の監理団体として財団全体で 都域の文化振興に資する取組 を行います。	
	学校教育との連携	学校団体への対応や教員向け講座の実施等において東京都や各区の教育委員会、私学協会等とこれまで以上に緊密な協力関係を持って教育プログラムを展開していきます。
	パートナーシップ事業(大学等)	都内及び近隣県の大学等を対象に、文化施設を気軽に体験できる機会を提供していきます。今後は、より幅広い参加が得られるよう、あり方や運用を見直していきます。 【参考:現参加校】 跡見学園女子大学、学習院大学、国際基督教大学、首都大学東京、大正大学、東京造形大学、獨協大学、日本工業大学、武蔵野美術大学、メイ・ウシヤマ学園、ハリウッド大学院大学、ハリウッドビューティー専門学校、立教大学、立正大学
	共通入場券への取組(ぐるっとパス)	都内79施設(H28年度)で構成する「ミュージアムぐるっとパス」事務局を担当し、都内の美術館・博物館の更なる利用を促進します。今後は、参加対象や利用期間の拡大、運営体制の強化等を検討し、サービスを充実させていきます。
	都内の文化活動に対する支援	○都民の皆様に様々な舞台芸術を体験していただく機会を提供するため、各実演団体と協力し「都民芸術フェスティバル」を開催します。 ○都内市区町村と共催で、地域で気軽にクラシックコンサートを鑑賞してもらうことを目的に、一流オーケストラと新進気鋭の若手演奏家の共演による「フレッシュ名曲コンサート」を開催します。 ○東京芸術劇場は、「公立文化施設活性化アドバイザー事業」を提案し、区市町村の公立ホールが戦略的な貸館運営を行い、ホール不足問題の解決に資するよう支援します。
都域の組織への加入	○東京都公立文化施設協議会 東京芸術劇場(会長館)、東京文化会館 ○東京都博物館協議会 東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館	
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団	

提案課題3〔事業等の連携〕 3 都立文化施設以外の施設等との連携について		
連携	連携の取組	展開例
都域 (地域)	都立文化施設として、多摩や島しょにおいても一定の役割を果たしていきます。	
	多摩	<p>○全国歴史民俗系博物館協議会多摩部会の設立……江戸東京たてももの園 多摩地域の文化施設の連携を図り、各施設の回遊性を高める取組を推進するとともに、広報や危機管理の分野で協力します。</p> <p>○文化施設・大学連携……江戸東京たてももの園 多摩地域の博物館や美術館と展覧会等の企画面での連携により多摩地域での広がりを図ります。また多摩地域にキャンパスを有する大学と連携し、学生が博物館活動に参加できる機会を増やし、社会貢献・地域貢献できる仕組みを作ります。</p> <p>○アーツカウンシル東京による事業との連動 アーツカウンシル東京による「東京大茶会」を江戸東京たてももの園で開催し、多摩地域における伝統文化の紹介に貢献します。</p> <p>○アウトリーチ活動…各館 各館の特色を活かし、ワークショップやコンサート等のアウトリーチ活動を適宜展開します。例えば東京文化会館では各種のアウトリーチコンサートを多摩地区で開催します。また東京都現代美術館は、工事休館中に現代美術作家によるオリジナルワークショップや講座など出張事業を多摩地区で展開することを計画しています。</p>
	島しょ	<p>○学校教育支援…各館 美術作品や音楽鑑賞、歴史学習など各館の事業を学校教育現場で活用できるよう、教員向けの活用プログラムを実施します。島しょで教鞭をとる教員が参加しやすいように日程に配慮して呼びかけます。</p> <p>○アウトリーチ活動……各館 各館の特色を活かし、ワークショップやコンサート等のアウトリーチ活動を適宜展開します。</p>
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団	